

研究紀要 第27号

# 「個別最適な学びと、協働的な学び」の 一体的な充実の実現に向けた実践的研究

～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、  
ICTの積極的な活用を通して～

3か年継続研究：1年次

令和4年3月 留萌管内教育研究所

研究紀要 第27号

# 「個別最適な学びと、協働的な学び」の 一体的な充実の実現に向けた実践的研究

～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、  
ICTの積極的な活用を通して～

〈3か年継続研究：1年次〉

令和4年3月 留萌管内教育研究所

# 発刊に当たって

新型コロナウイルス感染症の影響と隣り合わせに過ぎた令和3年度ですが、関係各位のお力添えのおかげをもちまして、ここに留萌管内教育研究所研究紀要第27号を発刊できますことに心よりお礼を申し上げます。

今年度、当研究所は、新たな3か年継続研究「『個別最適な学びと、協働的な学び』の一体的な充実の実現に向けた実践的研究～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～」を立ち上げました。小学校・中学校ともに完全実施となった学習指導要領と、令和3年1月に示された中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」を踏まえ、この趣旨を日常授業に具体化することを目指すものです。

上記答申は、コロナ禍や教師の長時間労働、情報化への対応の遅れなど、今まさに顕在化している課題を包括的かつ真正面から受け止め、躊躇ない改革を進めることにより「令和の日本型教育」の実現を目指すという方向性が示されています。その具体的な在り方である「個別最適な学び」と「協働的な学び」については、その実現を支える環境や諸条件までが示されており、学習指導要領を方法論として具体化したものとも捉えられるでしょう。本研究においては、育成すべき資質・能力を明確にした「学習デザイン」と、ねらいを明確にした効果的な「ICTの活用」を、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための土台と位置付け、管内各校の日常授業の充実に寄与できるよう、「使える・役立つ研究」を展開して参ります。

1年次研究の推進に当たっては、苫前小学校 飯田ユミ先生、天塩小学校 坂本千恵先生、遠別中学校 柳谷武志先生、天塩中学校 山形大介先生を研究協力員にお迎えしました。新型コロナウイルス感染症の影響下、十分なお説明もままならずご迷惑をおかけしましたが、多忙な業務のかたわら、歩み始めたばかりの研究に真摯に向き合っていただき、建設的なご意見等をいただくことができました。来年度の協力員の構成は未定ではありますが、4名の知見とエネルギーは、必ずや研究理論と一つ一つの教室を結びつけ、管内教育の充実・発展に資するものと確信しているところです。直接・間接を問わず、本研究へのご協力をよろしくお願いいたします。

世界規模のパンデミックにより、社会や学校現場は新たな手間や苦労を数多く経験しました。一方で、当たり前だと信じて疑わなかったことが覆り、斬新な発想により新しい世界が切り開かれてもいます。本研究所は、「現場ファースト」を信条として掲げていますが、よりいっそう激しさを増す教育情勢の変化の中、その時々求められる研究所の在り方を追求して参りたいと考えています。忌憚のないご意見やご指導をもって継続研究を育てていただくとともに、当研究所へのいっそうのお力添えをお願いいたします。

結びとなりますが、本研究所の運営に対してご支援を賜りました管内各市町村教育委員会、北海道教育庁留萌教育局、管内小中学校長会・教頭会の皆様、そして本研究の推進を支えてくださいましたすべての方々へ感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊に当たってのご挨拶といたします。

令和4年3月

留萌管内教育研究所長 村 元 隆 一

# 目 次

「発刊に当たって」

留萌管内教育研究所長 村 元 隆 一

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	目指す児童生徒像	
4	研究内容	
5	研究計画の概要	
6	研究の全体構造	
7	令和3年度の研究	
II	研究の内容	7
1	研究のねらい	
2	研究の具体	
3	研究の視点	
4	学習指導案の型	
III	研究員の実践	41
1	提案授業	
	○留萌市立緑丘小学校 第3学年 算数科 授業者 佐藤 豪 研究員	
IV	研究の成果と課題	53
1	成果と課題	

※ 参考文献リスト

※ 研究協力員・留萌管内教育研究所

あとがき

# I 研究の概要



1 研究主題

2 研究主題設定の理由

3 目指す児童生徒像

4 研究内容

5 研究計画の概要

6 研究の全体構造

7 令和3年度の研究

# I 研究の概要

## 1 研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究  
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 今日的な学校教育の課題から

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする必要がある。

また、令和時代における学校の「スタンダード」として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう GIGA スクール構想により児童生徒一人一台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境が実現されることを最大限生かし、端末を日常的に活用するとともに、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。

ICT の活用と、これまでも重視されてきた「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」、多様な他者と協働しながら、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」の一体的な充実を通して、児童生徒に「予測困難な時代」を生き抜く資質・能力を育成することが、2020 年代を通じて実現を目指す学校教育「令和の日本型学校教育」として、強く求められている。

### (2) これまでの研究の成果と課題

本研究所では、これまで9次に及ぶ共同研究に取り組んできた。前次では『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた実践的研究』について成果と課題を明らかにした。

頭の中にある知識や新しく得た情報を、一定の視点や枠組みに従って書き出す「思考ツール」の活用によって自分の考えの可視化や、学習の中での気づきを加筆することで、自己の考えの広がりや、思考ツールを活用しての対話による考えの深まりなどが見られた。また、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、そのためにどのように思考させるべきなのか、その思考を援助、可視化させるために最適な思考ツールは何かという視点で授業を組み立てることで、教師の授業改善につながったという成果が見られた。一方で学んだことの意味に気付いたり、新たな学びにつなげたりできるような効果的な振り返りの場の設定、児童生徒自らが思考を可視化するために最適な思考ツールを選択する能力を高めるための活用方法などの課題があげられた。

新たな研究を立ち上げるにあたり、これらの課題の解決とともに、新しい時代を見据えた学校教育の姿として求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現を、育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと ICT の積極的な活用を通して実現を目指していきたいと考えた。

### (3) 留萌管内の教育との関わり

要覧「るもいの教育—令和3年(2021年度)版—」(北海道教育庁留萌教育局)では、「令和3年度の管内教育を推進するための重点テーマを『学校・家庭・地域社会が協働を深め、ふるさとの未来を担う子どもを育む取組の推進』とし、これを具体化するために『社会で生きる力』の育成など、学校、家庭、地域社会との協働の下で、子ども一人一人がふるさとへの思いを抱き続け、未来の担い手として活躍することができるよう取り組んでいます。」とある。また、その『社会で生きる力』の育成のために、「○『学びを止めない』教育の推進、○特別支援教育の充実、○新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進」を挙げている。

そこで、本研究でも、「『学びを止めない』教育の推進」の実現のために、積極的・効果的な ICT の活用、「特別支援教育の充実」、「新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進」の実現のために、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現ができるよう、研究を推進していく。

## 3 目指す児童生徒像

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒。

## 4 研究内容

「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実を実現する学習活動の在り方を検証するために、次の内容について研究する。

### 研究内容・視点1 ～個別最適な学び～

指導の個別化

#### 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

- (1) 教師の丁寧な見取り(指導と評価の一体化)
- (2) 学習計画(学習の見通し)
- (3) 知識・技能の確実な習得(習得)
- (4) 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用と教科等横断的な学習(活用)

学習の個性化

#### 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

- (5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探究的な学び(探究)
- (6) 自身の変容や成長の自覚(学習の振り返り)
- (7) 自己のキャリア形成とのつながり(キャリア形成)

## 研究内容・視点2 ～協働的な学び～

### 異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す

- (1) 教師の児童生徒への関わり（子どもたちを支える伴走者としての教師の役割）
- (2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- (3) 課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- (4) 学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流、地域の課題解決を目指す活動など）

## 5 研究計画の概要

### (1) 研究期間

令和3年度から令和5年度までの3か年継続研究

### (2) 研究領域

全教科・領域

「国語」「社会」「算数、数学」「理科」「生活」「音楽」「図画工作・美術」  
「家庭、技術・家庭」「体育、保健体育」「外国語」「特別の教科 道徳」  
「外国語活動」「総合的な学習の時間」「特別活動」

### (3) 研究の進め方

- ① 文献や先行実践資料などの調査や、所内の研究員会議や研究協力員との合同研究会議、道研連との共同研究などを通して、理論研究を進める。
- ② 1年次・2年次は、留萌管内教育研究所の研究員と研究協力員、3年次は研究協力員の授業実践を基に理論を検証し、各年次とも研究紀要にまとめる。
- ③ 研究紀要にまとめた内容は、留萌教育局との合同研修会において発表し、研究協議等で明らかにされた成果と課題を基に、研究の深化・発展を図る。

### (4) 今年度の計画

	共同研究	道研連共同研究
4月	・年間計画立案 ・研究協力員の確認と決定	・道研連定期総会
5月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備	・共同研究推進委員会
6月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備	
7月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備	・北海道教育研究所連盟夏季 研究所員研修会
8月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備	・第76回北海道教育研究所 連盟研究発表大会後志大会
9月	・第1回提案授業指導案検討	
10月	・第1回合同研究会議（今年度の研究の推進・ 指導案検討	・共同研究推進委員会
11月	・第1回提案授業（研究員）	・冬季所員研修会
12月	・研究紀要編集作業	



1月	・今年度の研究の成果と課題について（研究紀要編集と校正）	・共同研究推進委員会
2月	・第2回合同研究会議（今年度の研究の成果と課題について、次年度の研究計画） ・研究紀要編集と校正、入稿 ・留萌教育局との合同研修会	
3月	・研究紀要第27号発刊	

## 研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究  
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～

## 目指す児童生徒像

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒。

## 研究内容

# 一体的な充実

### 【視点1】 個別最適な学び

#### 指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

- (1) 教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- (2) 学習計画（学習の見通し）
- (3) 知識・技能の確実な習得（習得）
- (4) 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用と教科等横断的な学習（活用）

#### 学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

- (5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探究的な学び（探究）
- (6) 自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- (7) 自己のキャリア形成とのつながり（キャリア形成）

### 【視点2】 協働的な学び

異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

- (1) 教師の児童生徒への関わり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
- (2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- (3) 課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- (4) 学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流・地域の課題解決を目指す活動など）

#### 学習デザイン（R3年度重点）

- ・育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン
- ・指導と評価の一体化
- ・教科等横断的な学習
- ・児童生徒のキャリア形成

#### ICTの積極的な活用（R4年度重点）

- ・学校教育の質の向上に向けたICTの活用
- ・ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上
- ・各教科等の指導におけるICTの活用

## 7 令和3年度の研究

### 【今年度の重点】

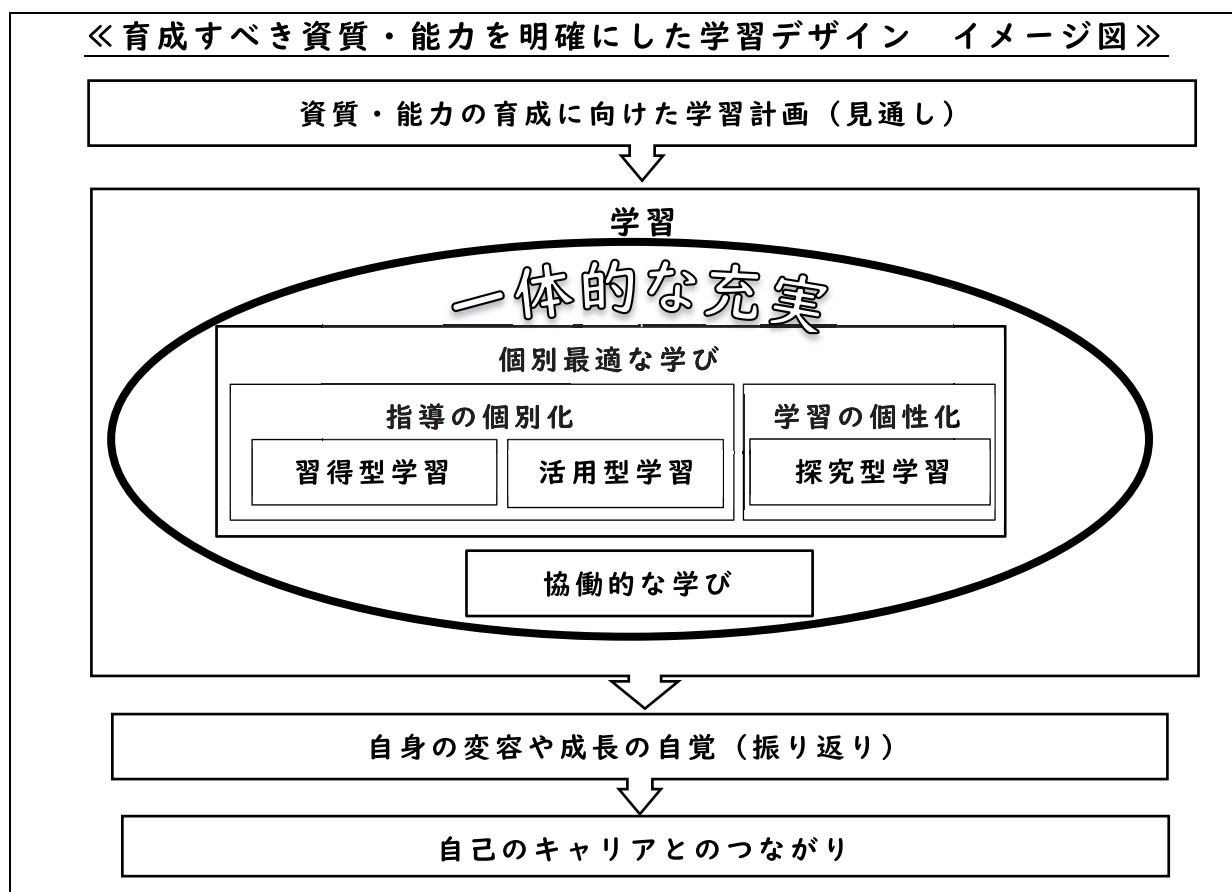
育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン

### 【学習デザインの基本方針】

- ・研究の視点を明らかにする。
- ・それぞれの育成すべき資質・能力に応じた学習デザインを行う。
- ・学習の見通しと振り返りの場面や時間を設定する。
- ・教師の丁寧な見取りによる、それぞれの児童生徒に合った学習デザインの作成を重ね、最終的には児童生徒自身が自己の学習をデザインできる姿を目指す。

### 【資質・能力育成の方向性】

- ・児童生徒の学習改善や教師の指導改善へとつながる指導と評価の一体化を図り、各教科等の学習内容の着実な習得を目指す。
- ・教科等横断的な視点に立ち、児童生徒に生きてはたらく資質・能力を育成する。
- ・学習と自己の生活や社会、キャリア等とのつながりを意識させ、学習意欲の向上や自己実現に向かう前向きな態度の育成を図る。



※ 詳しくはⅡ研究の内容 2研究の具体

# Ⅱ 研究の内容



1 研究のねらい

2 研究の具体

3 研究の視点

4 学習指導案の型

## Ⅱ 研究の内容

### 1 研究のねらい

# 目指す児童生徒像と研究主題について

#### 目指す児童生徒像として

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒

を設定した。この児童生徒像は、学習指導要領前文や答申にも書かれており、我が国の学校教育で育成することが求められる姿である。

そこで本研究では、

「個別最適な学び」により、自分のよさや可能性を自覚することのできる児童生徒を、「協働的な学び」により、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働しながら困難を乗り越える児童生徒を、そして、「個別最適な学びと協働的な学び」を、一体的に充実させることを通して、豊かな人生を切り拓き、持続可能な創り手となる児童生徒（＝自立した学習者）の育成を目指していく。

これらの実現のために、育成すべき資質・能力の育成に向けた学習デザインを繰り返しながら、教師の支援を踏まえ、最終的には児童生徒自身で学習をデザインしていくことを目指す、「育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン」と、学校教育の基礎的なツールとして必要不可欠なものとなった ICT を、これまでの実践と最適に組み合わせていく「ICT の積極的な活用」の2つを授業改善の方策の柱として、副題として設定し、研究主題を次のように決定した。

## 研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究  
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～

学習デザインや ICT の活用を繰り返すことで、最終的には、児童生徒が目標に向かって自分自身の学習をデザインし、ICT を活用しながら学習を進めていく「自立した学習者」の育成を目指していきたい。

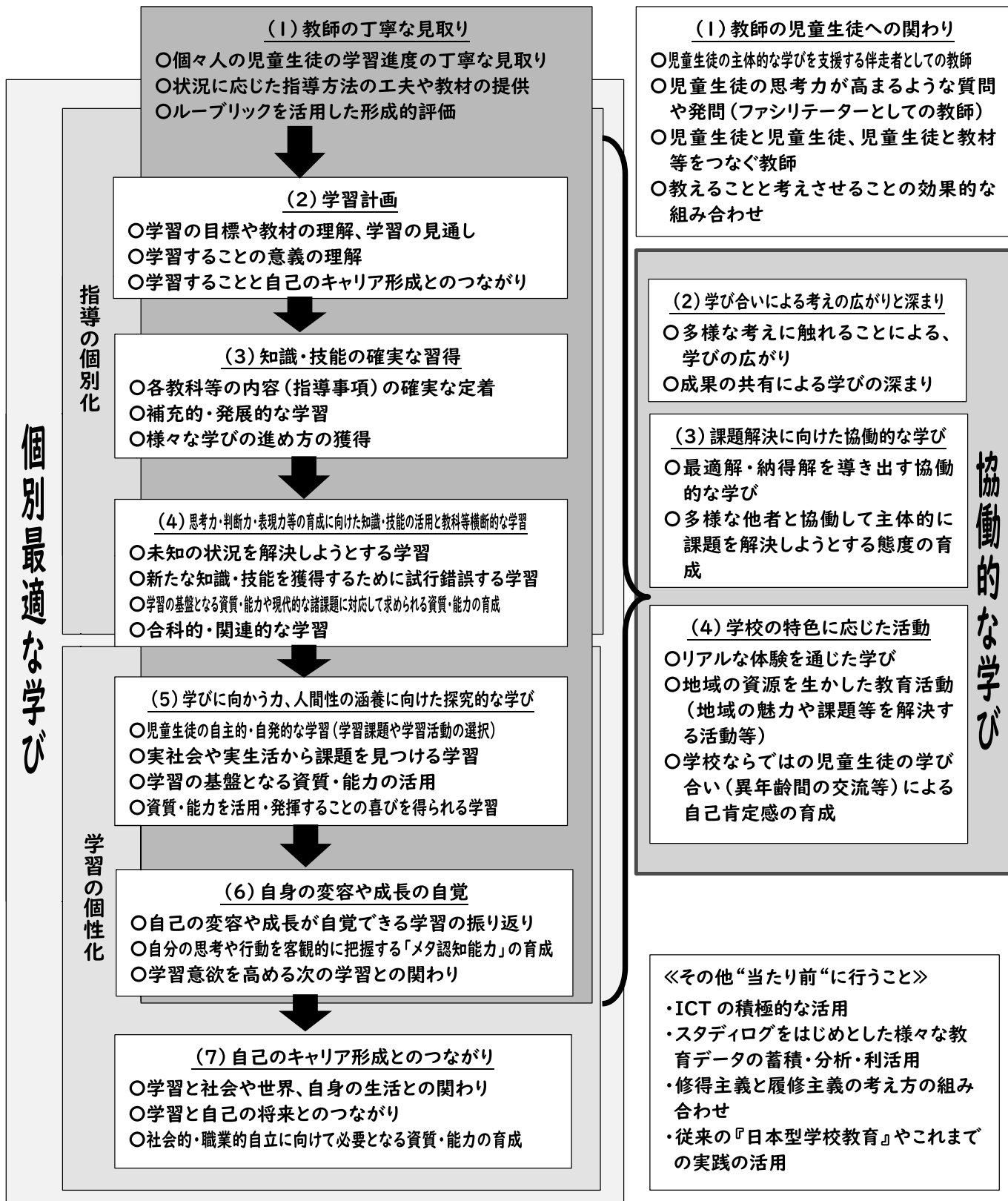
そのためにも、子供一人一人が「それぞれのやり方で、それぞれのスピードで、それぞれの目標へ」と向かっていくような、「子供が主語となる学び」を実現させながら、研究を進めていく。

## 2 研究の具体

(1) 育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインについて

### どのように単元をデザインするか？

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習の実現に向けて、下記のような単元デザインを基本として学習をデザインしていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を児童生徒の実態に応じて適切に位置付けながら、資質・能力の育成を目指していきたい。

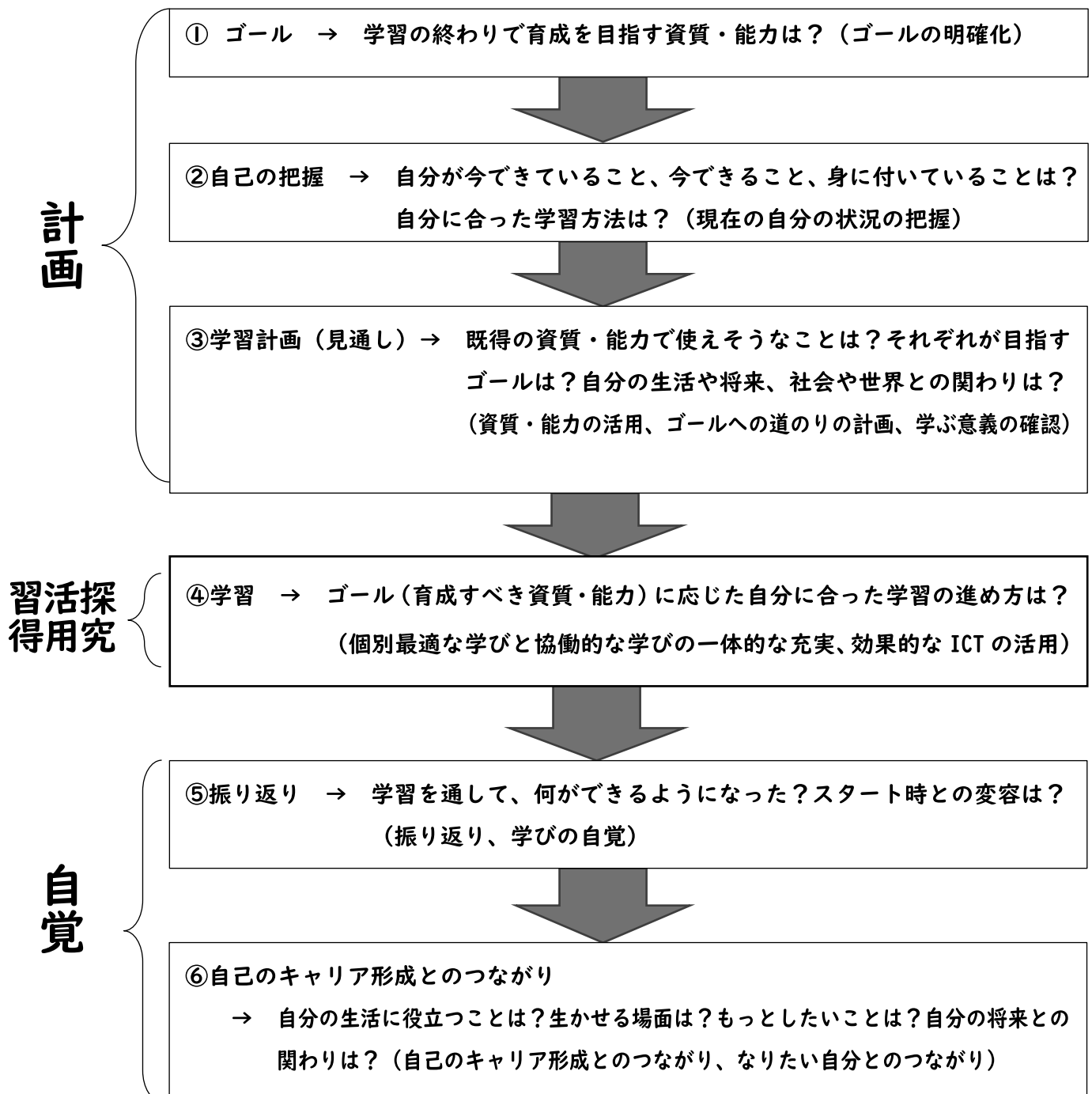


# どのような手順で学習をデザインするか？

教師とともに学習デザインを繰り返しながら、最終的には児童生徒自身で学習をデザインできる「自立した学習者」の育成を目指していく。

学習デザインの手順の例を以下に示した。学習を進める中で、教師は児童生徒の伴走者として、児童生徒の主体的な学びを支えられるようにする。

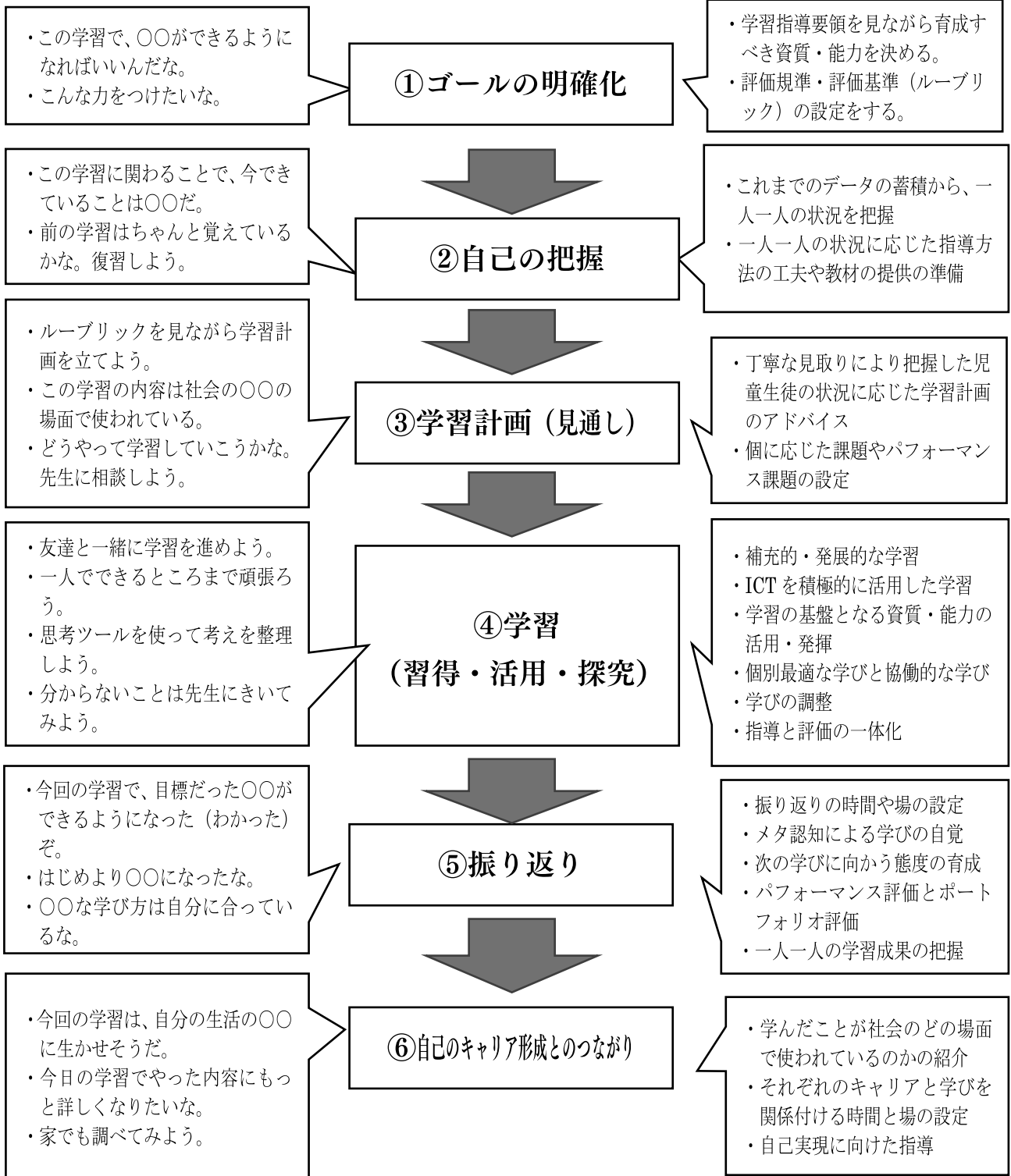
## 《学習デザインの手順》



# 学習を進める子供の思考と教師の役割は？

## 《子供の思考》

## 《教師の役割》





# 育成すべき資質・能力とは？

学習指導要領において育成すべき資質・能力は、次の3つに整理されている。

- ①「何を理解しているか・何ができるか」  
→生きて働く「知識・技能」の習得
- ②「理解していることを・できることをどう使うか」  
→未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」  
→学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

本研究では、『令和2年度 小学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）』<sup>1</sup>「新学習指導要領の理念」を参考にしながらそれぞれの資質・能力を以下のように捉え、研究を進めていく。

## ○知識・技能（生きる力を支える重要な要素）

- ・知識→他の学習や生活の場面でも活用できる確かな知識
- ・技能→他の学習や生活の場面でも活用できる確かな技能

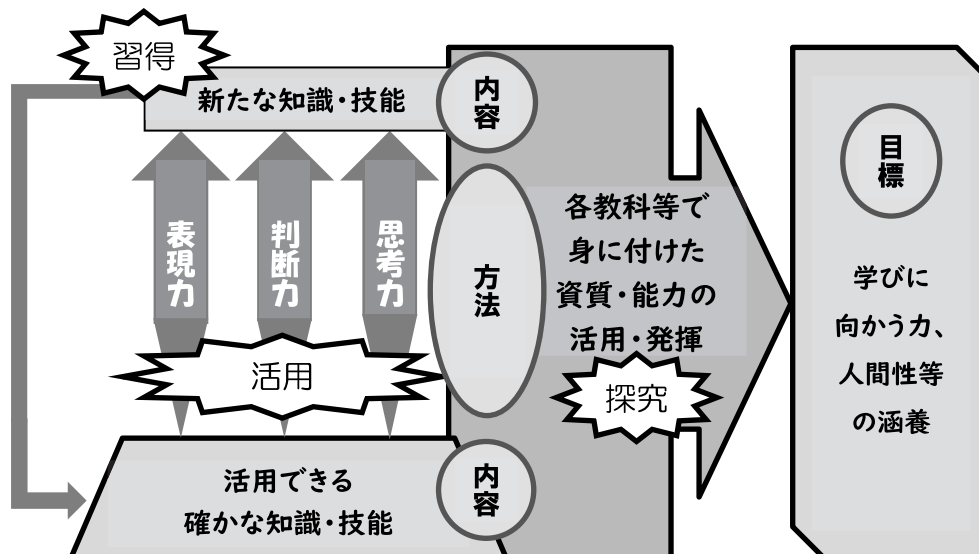
## ○思考力・判断力・表現力（「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力）

- ・思考力→問題を解決したり、考えを形成したり、新たな価値を創造したりしていくために必要な力
- ・判断力→結論を決定していくために必要な判断や意思決定をする力
- ・表現力→伝える相手や状況に応じて表現する力

## ○学びに向かう力、人間性等（他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくのかを決定付ける重要な要素）

- ・自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- ・自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力
- ・多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやり等の人間性

また、本研究では、3つの柱をその特色からそれぞれ、「知識・技能」を学習する内容（習得）、「思考力・判断力・表現力等」を学習の方法（活用）、「学びに向かう力、人間性等」を目指すべき姿、目標（探究）と捉え、「習得・活用・探究」という学習のサイクルを回して最終目標である「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指していく。

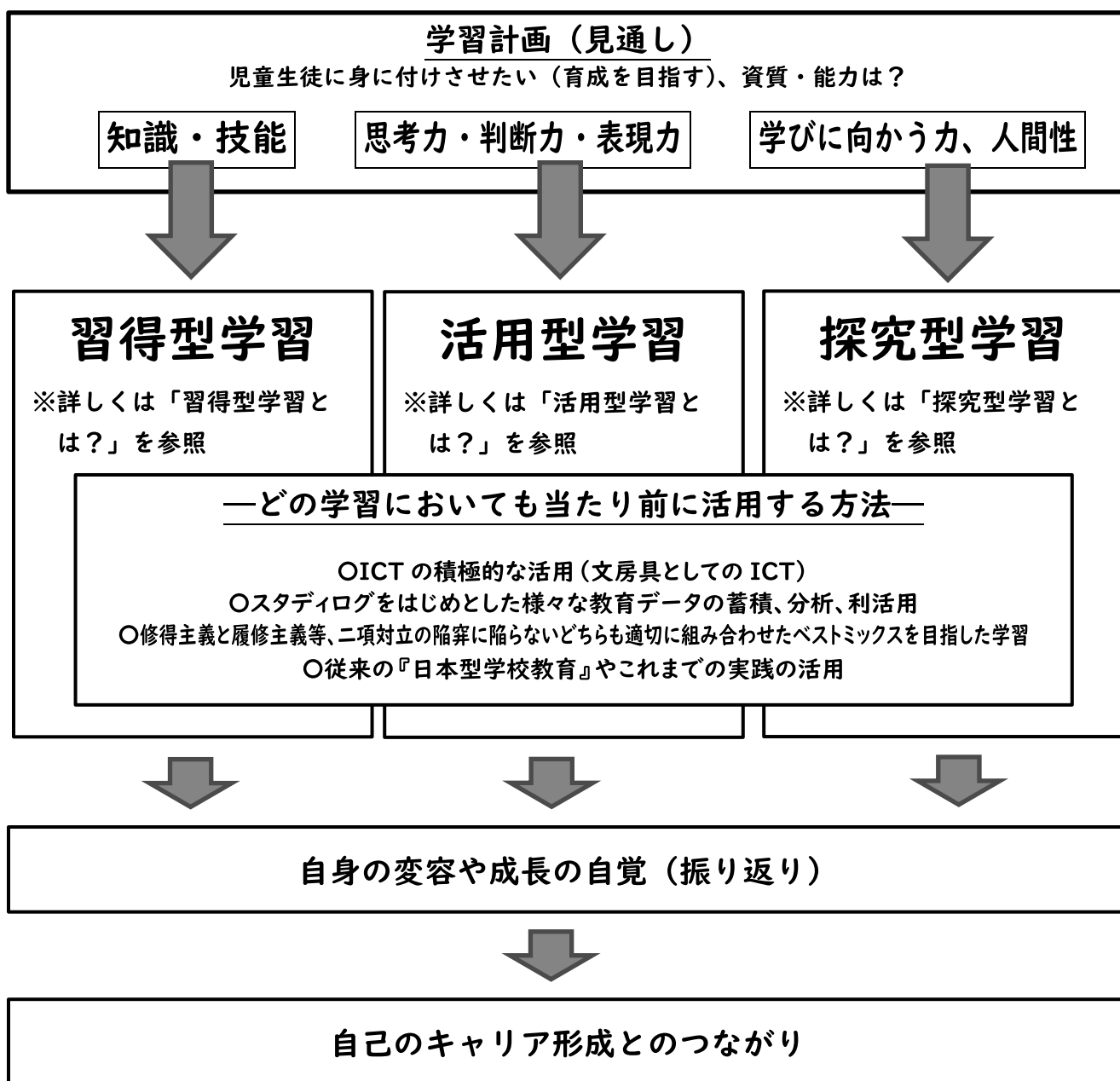


# 育成すべき資質・能力別の学習デザインとは？

本研究では、単元や学習のまとまり、1単位時間の授業の中で身に付けさせたい（育成を目指す資質・能力）を明確にし、学習方法を児童生徒の実態と照らし合わせながら、それぞれの資質・能力に応じた学習デザインをしていく。

育成を目指す資質・能力によって、それぞれ習得を目指す「知識・技能」であれば「習得型学習」。育成を目指す「思考力・判断力・表現力等」であれば「活用型学習」。涵養を目指す「学びに向かう力、人間性等」であれば「探究型学習」を基本とし、「習得・活用・探究」の学びの過程の中でそれぞれの学びで身に付いた資質・能力を活用・発揮しながら、資質・能力を更に伸ばしたり、新たな資質・能力を身に付けたりしていく。

## 《育成すべき資質・能力別学習デザインのイメージ図》



# 習得型学習とは？

「知識・技能」の習得を目指す「習得型学習」では、以下のような学習デザインを行い、全ての児童生徒に各教科等で身に付けるべき知識・技能の確実な定着を目指す。

習得型学習で目指す姿

各教科等の知識・技能を確実に習得し他の学習や生活の場面で活用している姿

## 学習方法の例

### 個別学習

個々人に合わせた学習指導。教師が寄り添いながら、児童生徒の実態に応じた指導を行う学習

### グループ別学習

ペア学習や、グループ学習等、目標の達成のために設定する小集団での学習

### 繰り返し学習

ドリル学習やプリントによる復習等。確実に生きて働くものになるまで繰り返しを徹底して行う学習

### 習熟の程度に応じた学習

レディネスの状態や本人の希望、教師の意図等を考慮しながら行う、それぞれの児童生徒のレベルに応じた学習

### 補充学習

知識・技能を確実に定着させるための「できない」「分からない」を「できる」「分かる」にする学習

### 発展学習

学習内容の理解を一層深め、広げる学習

### 各種学習コンテンツを利用した学習

動画視聴やデジタルドリル、学習サイト等、主に ICT (PC やタブレット等) を活用しながら行う学習

### 個々の児童生徒に合った多様な方法での学習

思考ツールの活用や各種の学習コンテンツ等、様々な学習方法から、自分に合った学びを発見、活用していく学習

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

ゴール（目指す姿）した自分をイメージする力  
ゴールへの見通しをもつ力

# 活用型学習とは？

「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す「活用型学習」では、以下のような学習デザインを行い、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指す。

活用型学習で目指す姿

身に付けた資質・能力を活用・発揮し、未知の状況にも対応することができる姿

## 学習方法の例

**未知の状況を解決しようとする学習**

正解が分からないことや、解決することができていない、あるいは難しい内容の解決を目指す学習

**新たな知識・技能を獲得するために試行錯誤する学習**

身に付けたい知識・技能を獲得するために、それぞれの子供が自己の学習を調整しながら行う学習

**複数の教科の目標や内容を組み合わせた教科間の関係性を深めるような合科的学習**

単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する学習

**複数の教科の目標や内容を組み合わせた教科間の関係性を深めるような関連的な学習**

教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法等について相互の関連を考慮して行う学習

**各教科で身に付けた知識・技能を統合的に働かせた教科等横断的な学習**

各教科の中で身に付けた知識・技能を活用しながら課題解決を目指す学習

**国語力、数学力等社会の中で活用できる能力を活用する学習**

学習課題と国語、算数・数学で身に付けた、生活に欠かすことの出来ない資質・能力との関連について考え、これらの資質・能力を活用しながら、課題解決や資質・能力の定着を目指す学習

**育成すべき学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる能力が明確化された学習**

どの教科の学習においても重要となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成を目指す学習

**学習内容の重複が回避された学習**

他教科で、同じ目標の学習が行われないように、統合できる学習内容は統合しながら行う学習

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

活用する知識・技能を自覚する力  
粘り強く学習に取り組もうとする力

# 探究型学習とは？

「学びに向かう力、人間性」の涵養を目指す「探究型学習」では、以下のような学習デザインを行い、自ら学びに向かう「自立した学習者」に近づけることを目指す。

## 探究型学習で目指す姿

自ら学びに向かい、自らの学びを調整することができる「自立した学習者」としての姿

## 学習方法の例

### 個々の児童生徒の興味関心に応じた、異なる目標に向けた自主的・自発的な学習

自分の興味関心のあることについて、さらなる深化をはかるための自主的・自発的な学び

### 学習の基盤となる資質・能力を活用する学習

知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等の育成の中で育まれた学習の基盤となる資質・能力を活用しながら問題を発見したり、情報を集めたり、言葉で表現したりする学び

### 実社会や実生活から課題を見付ける学習

実際の社会や生活と自らの学びをつなげ、課題を見つけるとともに、身に付けた資質・能力との関連付けるような学び

### 資質・能力を活用、発揮することの喜びを得られる学習

身に付けた資質・能力が、実社会や実生活、様々な課題解決につなげられることを自覚することができるような学び

### 目標達成に向け、粘り強く取り組み、自らの学習を調整しながら進める学習

目標の達成に向けて、簡単にあきらめることなく粘り強く取り組むとともに、ひとつのやり方に固執せず、様々な方法を試したり、方法と方法をつなげたりしながら目標の達成を目指す学び

### 学校の特質や学校や地域の実態に応じた学習・体験活動

それぞれの学校の資源や施設、環境等を生かした、その学校・地域独自の学び・体験活動

### 各教科で身に付けた資質・能力を活用しながら行う総合的な学習の時間や特別活動での学習

各教科等で身に付けた資質・能力を、総合的な学習の時間の探究的な学びや学級活動、よりよい学級作り等に生かす、より実践的な活動の中で活用する学び

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

学習の基盤となる資質・能力  
自己の学習を調整する能力

# 学習評価（見取り）の仕方は？

## 1. 学習評価の考え方

- どの観点であっても、指導したものは評価する、指導していないものは評価しない。
- しっかりと児童生徒をみながら（見る（一般的）・観る（観察）・看る（お世話）・診る（診察）・視る（調査））児童生徒の学習改善や教師の指導改善へとつなげていく。
- 学期末や学年末等の事後だけの評価や、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えた評価等ではなく、指導に生かす評価を心掛ける。

## 2. 評価すること

児童生徒に一生残ってほしい資質・能力を評価していく。

- 知識・技能 → 生きて働くものとなっているか。概念をもっているか。
  - ・各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得の状況
  - ・他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。
- 思考・判断・表現 → 課題解決へと向かうものとなっているか。
  - ・各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているか。
- 主体的に学習に取り組む態度 → 自分の意志・判断によるものとなっているか。
  - ・知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面（意志）
  - ・粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしている側面（判断）

## 3. 評価規準の作り方



国立教育政策研究所が教科別に作成した「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を参考にする。原則として、学習指導要領の記載事項の文末を「～すること」から「～している」に変換することで、「内容のまとめりごと」の評価規準を作成する。



## 4. 評価の方法

ペーパーテスト、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等、多面的・多角的な評価や、総括的、形成的な評価を行いながら、子供たちの資質・能力がどのように伸びているのかを把握する。

- パフォーマンス評価…知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合する）ことを求めるような評価方法（問題や課題）
- ポートフォリオ評価…ポートフォリオ（学習者の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録等を系統的に蓄積していくもの）作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価する方法

### 【各評価方法の例】

	ペーパーテスト・実技テスト	パフォーマンス	ポートフォリオ
知識・技能	事実的な知識・技能 概念的な理解	文章による説明 実験・観察、式やグラフの表現等、知識 技能を用いる場面の設定	
思考・判断・ 表現	思考力を問う問題・実技	論述やレポートの作成・発表 グループでの話し合い 作品の制作や表現等の多様な活動	論述やレポートの作成・発表 パフォーマンス評価の蓄積
主体的に学習に 取り組む態度		授業中の発言 自己評価や相互評価	ノートやレポートにおける記述 教師による観察記録

# 評価のタイミングは？

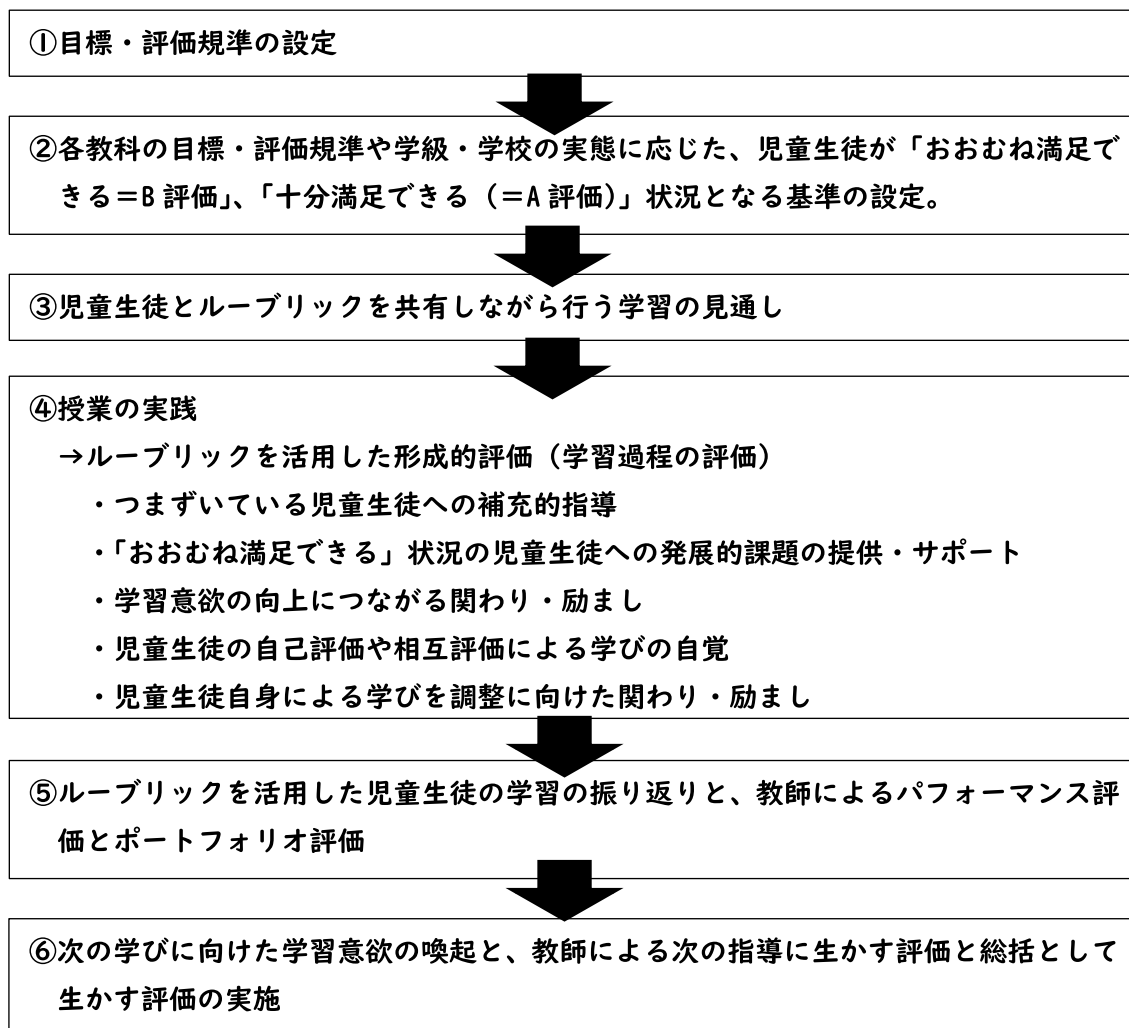
本研究では、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて指導過程で評価する形成的評価を、ルーブリック評価を取り入れながら行っていく。ルーブリックを用いて学習評価の方針を事前に児童生徒と共有することで学習の見通しをもたせるとともに、学習過程の中で活用することで児童生徒の学習改善や教師の指導改善に、振り返りの場面で活用することで自己の学びの状況の自覚やより高次への学びに向かう学習意欲の向上につなげていく。また、様々な場面での自己評価・相互評価で活用することで、メタ認知能力の向上や自己評価能力の向上を目指していく。

## 《ルーブリック評価とは》

「ルーブリック」とは絶対評価のための判断基準表のこと。

思考力・判断力・表現力等のペーパーテストだけでは測りきれない資質・能力の評価の妥当性を担保するために、有効な評価方法。特に表現力においては、数値では評価できない子供が作った作品やパフォーマンス等の評価を求められるため、評価の観点が明確になる。また、子供たちをルーブリックに参画させ、自己評価や相互評価に生かすことで自己評価力を高めることもできる。

## 《ルーブリックを活用した評価の流れ》



# 教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力とは？

学習指導要領では、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体で育てていくことを求めている。実際に、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の中で、探究的な学習を進める上で、これらの力は必要不可欠であり、変化の激しい時代を生きる児童生徒にとって必要不可欠な資質・能力であるといえる。

本研究では、学習の基盤となる資質・能力の具体として以下のように設定し、教科等横断的な視点に立ち、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むための学習を単元や学習のまとまり、一単位時間の中に位置付けながら研究を進めていく。また、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力についてはそれぞれの学校の実態に応じて育成していく。

## 《学習の基盤となる資質・能力》

言語能力	知識・技能	1. 国語科の学習を通して育成される「知識及び技能」 →言葉の働きや役割に関する理解。言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解等
	思考力・判断力・表現力等	1. 創造的・論理的思考の側面 →情報を多面的・多角的に精査し、構造化する力 2. 感性・情緒の側面 →言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 3. 他者とのコミュニケーションの側面 →言葉を通じて伝え合う力 →考えを形成し、深める力
	学びに向かう力、人間性等	1. 言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 2. 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げようとする態度 3. 集団としての考えを発展・深化させようとする態度 4. 体験したことや感じたことを言葉にしたり、それらを交流させたりしながら心を豊かにしようとする態度 5. 互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 6. 自分の感情をコントロールして学びに向かう態度 7. 言語文化の担い手としての自覚
情報活用能力	知識・技能	1. 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 2. 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 3. 情報モラル、情報セキュリティ等についての理解
	思考力・判断力・表現力等	1. 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）
	学びに向かう力、人間性等	1. 問題解決・探究における情報活用の態度 2. 情報モラル・情報セキュリティ等についての態度
問題発見・解決能力	思考力・判断力・表現力等	1. 物事の中から、問題を見いだす力 →未知の状況でもその状況と自分との関わりを見つめる力 2. 問題を定義する力 →なぜ問題なのか、なぜそのことを学ぶのかを検討する力 3. 問題の解決の方向性を決定する力 →既得の知識や技能を活用し、新たな知識や技能を獲得する方法を考える力。 4. 解決方法を探して、計画を立てる力 →必要な情報を集め、既存の知識と適切に組み合わせる力 5. 結果を予測しながら実行する力 →情報を他者と共有しながら対話や議論等を通じて、協力しながら問題を解決する力 6. 過程を振り返って次の問題発見・解決につなげていく力 →社会・世界と関わり、より良い人生を送ろうとする力



※情報活用能力の詳細については「情報活用能力の体系表例（IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの）」（文部科学省 HP）を参照。

※本研究では、問題発見・解決能力を「知識及び技能を活用して課題を解決する力」とし、資質・能力の3つの柱のうち、「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力・判断力・表現力等」を育成するものであると捉えた。

### 《現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力》

小学校学習指導要領総則編解説では、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として以下のような資質・能力が考えられるとしている。

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力

また、これらの資質・能力を育成するための教育内容として以下のような例示をしている。

教育内容	指導する教科の例（小学校）
伝統や文化に関する教育	国語、社会、音楽、図画工作、家庭、道徳、外国語活動・外国語・総合的な学習の時間、特別活動
主権者に関する教育	社会、道徳、特別活動、家庭
消費者に関する教育	社会、家庭、道徳
法に関する教育	社会、家庭、道徳、特別活動
知的財産に関する教育	国語、社会、音楽、図画工作、道徳
郷土や地域に関する教育	社会、生活、家庭、外国語活動・外国語、国語、音楽、図画工作、総合的な学習の時間、特別活動
海洋に関する教育	社会、特別活動
環境に関する教育	社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間
放射線に関する教育	国語、社会、道徳
生命の尊重に関する教育	理科、生活、道徳、特別活動
心身の健康の保持増進に関する教育	体育、家庭、理科、生活、社会、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
食に関する教育	理科、社会、家庭、体育、道徳、特別活動、生活、総合的な学習の時間、
防災を含む安全に関する教育	体育、道徳、家庭、特別活動、総合的な学習の時間、理科、社会、生活、図画工作

これらの資質・能力を育成するために、児童生徒や学校、地域の実態及び児童生徒の発達段階を考慮しながら、学校の特色に応じた教育課程の編成・実施が求められている。

本研究では、各教科に適切に位置付けるのとともに各学校ならではの体験活動や地域の資源を生かした教育活動、児童生徒の学び合い等を通じて育成を図っていく。

# 自己のキャリア形成との関わりとは？

本研究では、学んだことが自己の生活や将来とどのような関わりがあるのかということを経験者が伝えたり、児童生徒に考えさせたりしながら、学びと自己のキャリア形成の関連を意識させることを通して、次の学習へと向かう学習意欲の向上、学習の成果をなりたい自分や将来の自分へとつなげていこうとする態度の育成を目指していく。

学習を見通す段階では、教師が児童生徒に学習と社会や「大人の世界」とのつながりについて伝え、学習することが自己の生活やそれぞれの将来とつながっていることを意識させる。単元や学習のまとまりの終末の段階では、学習の成果を振り返るだけでなく、自己のキャリアとのつながりについて考える時間を設け、学習意欲の向上やなりたい自分、自己実現に向かう前向きな態度へとつなげていきたい。

## 《自己のキャリア形成につなぐ学習の例》

①ゴール（育成すべき資質・能力）の確認。

- ・学習を通して身に付けるべき資質・能力を意識させる。

②教師による学習と生活・社会とのつながりの伝達と児童生徒の学習への意義付け

- ・ゴール（育成すべき資質・能力）と生活や社会とのつながりについて伝える。
- ・児童生徒自身が自己の将来とのつながりについて考える。

③授業の実践。

④学習したことと、自己の生活・将来との関連付け

- ・学習を自分の生活に生かせる場面を想像する。
- ・学習したことが使われている「大人の世界」を想像する。
- ・今回の学習が次の学習や他の学習のどんな場面につなげられるかを考える。
- ・もっと深く知りたいことについて考える。
- ・学習したこととなりたい自分との関わりについて考える。
- ・自分の将来とのつながりについて考える。

⑤教師の対話的な関わり

- ・児童生徒が自覚するまでに至っていない成長や変容に気付いて指摘したり、一人一人が自らの成長を肯定的に認識できるように働きかけたりする。

## (2) ICT の積極的な活用について

# 学校教育の質の向上に向けた ICT の活用について

答申では、ICT の活用について

- 従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成や、他の学校・地域や海外との交流等今までできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実等にも ICT の活用は有効である。
- 端末を日常的に活用するとともに、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）等、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。
- 児童生徒が ICT を日常的に活用することにより、自らの学習を調整しながら学んでいくことができるようになるとともに、予想しなかったような形で児童生徒の可能性が引き出される可能性があることにも着目する必要がある。
- 特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、さらには個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等に、ICT のもつ特性を最大限活用していくことが重要である。
- その上で、ICT の活用が、従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成に効果的であることや、特に知識の習得に関して今までの教育では適応的でなかった児童生徒の一部に効果を発揮すること、学校外での学びにも活用できること、特別な支援を要する児童生徒にとっては ICT の活用が、情報をやり取りし、将来の社会参画を促進し、生涯にわたって生活の質を大きく向上させることを考慮することが重要である。
- 学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを蓄積・分析・活用することにより、児童生徒自身の振り返りにつながる学習成果の可視化がなされるほか、教師に対しては個々の児童生徒の学習状況が情報集約されて提供され、これらのデータをもとにしたきめ細かい指導や学習評価が可能になる。
- また、一人一人の児童生徒の状況を多面的に確認し、学習指導、生徒指導、学級経営、学校運営等教育活動の各場面において、一人一人の力を最大限引き出すためのきめ細かな支援が可能となる。

とあり、今後の学校教育の様々な課題を解決し、教育の向上につなげるために学校教育の基礎的なツールとして ICT は必要不可欠なものであり、様々な可能性があることが書かれている。

一方、注意点として

- なお、ICT はこれからの学校教育には必要不可欠なものであり、基盤的なツールとして最大限活用していく必要はあるが、その活用自体が目的でないことに留意が必要である。
- これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要。その際、PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要。
- その際、1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICT の活用が特別なことではなく「当たり前」となるようにするとともに、ICT により現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶ等、学校教育を現代化することが必要である。
- また、児童生徒の健康面への影響にも留意する必要がある。

とあり、ICT を活用すること自体を目的としないことや、これまでの実践と ICT を最適に組み合わせることで、PDCA サイクルを意識すること等、児童生徒が ICT を“文房具”として“当たり前”に活用することでどのような効果が期待できるのかといった、ICT を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことの重要性についても健康面の影響とともに書かれている。

# ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上について

答申には、ICT の活用による効果について、

- 個々の児童生徒の学習状況を教師が一元的に把握できる中で、それに基づき特別な支援が必要な者に対する個別支援が充実され、多様な児童生徒がお互いを理解しながら共に学び、特定分野に特異な才能のある児童生徒が、その才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会にアクセスすることができる。
- 新たな ICT 環境や先端技術を効果的に活用することにより、以下のようなことに寄与することが可能になると考えられる。
  - ・新学習指導要領の着実な実施
  - ・学びにおける時間・距離等の制約を取り払うこと
  - ・全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別に最適な学びや支援
  - ・可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成
  - ・学校における働き方改革の推進
  - ・災害や感染症等の発生等による学校の臨時休業等の緊急時における教育活動の継続

とあり、特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供等、児童生徒一人一人に寄り添った指導を ICT の活用と少人数指導を両輪として行いながら、全ての児童生徒の可能性を引き出す教育の実現を目指している。

また、教師の役割として、

- 児童生徒が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるよう環境を整え、授業をデザインしていくことが重要である。
- 児童生徒にプログラミング的思考や情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用能力を身に付けさせるための ICT 活用指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用等、教師のデータリテラシーの向上に向けた教育の充実を図っていく必要がある。
- ICT を“すぐにも”“どの教科等でも”“誰でも”活用できる環境を整え、日常的に活用することにより、児童生徒が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくべきである。
- 教師による対面指導や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICT も活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することが求められる。
- 個々の児童生徒の知識・技能等に関する学習計画及び学習履歴（スタディ・ログ）等の ICT を活用した PDCA サイクルの改善を図ることや、進学や転学等の際にも学校間で児童生徒のデータの引継ぎを円滑に行うこと等により、全ての子供たちの可能性を引き出すよう、個々の状況に応じたきめ細かい指導や学習評価の充実や、学習の改善を図ることが必要である。
- また、ICT を活用し、現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶ等、学校教育を現代化することが必要である。

とあり、教師には ICT 活用指導力やデータリテラシーの向上、指導ノウハウの収集・分析等、教師自身の資質・能力の向上や、ICT を学習に積極的、効果的に活用することが求められている。

そこで、本研究では、学校教育の質の向上のための効果的な ICT の活用と、ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上をめざしていく。

# 各教科等の指導における ICT の効果的な活用について

(令和2年9月 文部科学省) より

## 【各教科等の指導における ICT の基本的な考え方】

・新学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールとの一つとして ICT を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要

### 《留意点》

- 資質・能力の育成により効果的な場合に、ICT を活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からも ICT を活用する。

## ◆各教科等における一人一台端末の使用例◆

教科等	小学校	中学校
国語	録画機能を活用して、自分や友達のスピーチをよりよいものにする。	書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる。
社会	情報を集める・収集した情報を整理し、読み取り考える、考えた情報を話し合って発信する	生徒個々の課題意識に基づき、試行錯誤しながら多面的・多角的により深く考察する。
算数・ 数学	表に整理したデータを使って、様々なグラフを作成し、データの特徴や傾向をつかむ。	関数や図形等の変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する。
理科	学習したことを、日常生活や自然の事物・現象と結び付ける。	シミュレーションを活用して、観測しにくい現象を可視化し、理解を深める。
音楽	リズムカードを並べ替え、学習を見たり音で聞いたりして確かめながら試行錯誤していくことで、音楽表現を工夫する。 ソフトウェアを用いて、自分が演奏した音を可視化することにより、音のつながり方等を画面で確認し、音楽表現を創意工夫する。	
図工・ 美術	コンピュータの機能を生かして、形や色、構成の美しさ等を考えながら、段ボール等で表し方を工夫して工作を作る。 タブレットPCを用いたアニメーションの制作や3Dプリンターを活用してデザインしたものを制作する等の表現活動を行う。	
体育	心肺蘇生法等の実技の手順を動画で再確認する。 ゲームに向けて作戦を考えて交流する。(各自の視点でゲームの撮影動画を見返す。)	
家庭 技術	実習や製作の中で、つまづいた時や細かな動きを確認したいときに、何度も繰り返し再生する。 3DCADを活用して設計を最適化する。	
外国語	スピーチ原稿等を読み上げタブレットが読んだとおりの英文を表示するかどうかにより、自身の音声の適切さを確かめる。 小規模校同士によるTV会議システム等を使った交流の中で、様々な相手とコミュニケーションを図る。	
道徳	端末で他者の考えを知り、自分とは異なる考えをもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。	
生活 総合	振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める。 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探求の各プロセスにおいて活用する。	
特別活動	生活場면을撮影したり、サイトにアクセスしたりして、必要な情報を収集し、学校生活や社会の問題を見いだす。 個人の意見を表明し合うとともに、意見を比べ合い整理する。	
特別支 援教育	障害に応じて活用 タブレットの表示変換機能(視覚障害)、授業中の発話の見える化(聴覚障害) 抽象的な事柄を視覚的に理解(知的障害)、補助具の活用(肢体不自由)、授業配信(病弱) 読み上げ機能の活用(発達障害)	

### 3 研究の視点

#### 指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

#### (1) 教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）

「小学校学習指導要領解説 総則編（以下「総則」）」には、「評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わるのではなく、教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感することができるようにすることで、自分自身の目標や課題を持って学習を進めていけるように、評価を行うことが大切。」であると書かれている。また、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下「答申」）には、「全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなどの、「指導の個別化』が必要である。」「個々の児童生徒の特性や学習進度を丁寧に見取り、その状況に応じた指導方法の工夫や教材の提供等を行うことで、全ての児童生徒の資質・能力を確実に育成すること。」とある。

教師には、一人一人の児童生徒の学習状況を多面的・多角的に把握し、一人一人の児童生徒の力を最大限引き出すためのきめ細かな指導をすることや、児童生徒の学習状況を評価し、学習の評価を的確に捉え、指導の改善を図ることが求められている。

そこで、本研究では、教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、それを児童生徒に伝えたり、児童生徒に適した課題や教材を提供したりすることにより児童生徒自身に現在の自己の学習状況を把握させ、学習内容を学習する意義や価値を実感させながら、児童生徒の学習改善へとつなげていきたい。また、教師が単元や学習のまとまりの中で、児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て方を考えたり、効果的な評価をする場面を考えたりすることで、教師の指導改善へとつなげていきたい。

- ・指導したことの評価（指導していないことを評価をしない）
- ・教師による評価（パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価、各種テスト等）
- ・ルーブリックを活用した形成的評価（教師の丁寧な見取りと、児童生徒による自己評価や相互評価）
- ・児童生徒が伸びや自己の学びの状況を自覚する評価（児童生徒の学習改善や、教師の指導改善につながる評価）
- ・評価場面の精選（より効果的な評価の方法の模索）
- ・評価を生かした学習場面の精選（児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て）

#### (2) 学習計画（学習の見通し）

答申では、「子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」「とりわけ小学校中学年以降、学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につながるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切である。（中略）授業改善に当たっても、学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行うことが考えられる。また、学校の授業以外の場における学習の習慣や進め方についても視野に入れ、指導を行うことが重要である。」とあり、児童生徒を自らの学習を調整することができる、“自立した学習者”に育成することが求められている。

そこで本研究では（1）「教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）」の中で自覚した自分の学習状況から、「自分は何ができていて、何が出来ないのか」また、「何が得意で何が苦手なのか」などといったことを把握した上で、どのように学習していくことが自分の学習方法として適しているのかを考えたり、教師や仲間と相談し

合ったりしながら学習計画を立てられるようにしていきたい。また、そのとき、教師は、学習する単元やまとまりの中で育成すべき資質・能力を明確にするのはもちろん、その学習が社会や世界とどのようにつながっているのか、また、児童生徒のキャリア形成とどのような関わりがあるのかを児童生徒にイメージさせながら、児童生徒が学習する意義や価値を感じられるようにしていきたい。

- ・自分の現在地の確認（自己の学習状況の自覚と、それを促す教師の適切な支援）
- ・児童生徒による自己に適した学習方法の模索（寄り添いながら最適な方法を一緒に探す教師や仲間）
- ・学ぶことと自己のキャリア形成との関わりイメージ（学ぶことと自己との関連）
- ・学ぶ意義や価値を実感させる教師による説明（自己の生活と学びとの関わり）

### （3）知識・技能の確実な習得（習得）

総則では、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、児童生徒がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を併せて重視する必要がある、児童生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる。」「資質・能力の育成は、児童生徒が「何を理解しているか、何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられており、知識や技能なしに、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見出ししていくことは難しい。（中略）こうした「知識及び技能」と他の二つの柱との相互の関係を見通しながら、発達の段階に応じて、児童生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしていくことが重要。」とあり、知識・技能の確実な習得が求められている。また答申の中で、「学びに向かう力の育成は幼児期から成人までかけて徐々に進んでいくものであるが、初期の試行錯誤段階を経て、様々な学びの進め方や思考ツールなどを知り、経験していくことが重要である。」「児童生徒や学校の実態に応じ、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることなどにより、個に応じた指導の充実を図ることが規定されている。補充的な学習を取り入れた指導を行う際には、様々な指導方法や指導体制の工夫改善を進め、学習内容の確実な定着を図ることが必要であり、発展的な学習を取り入れた指導を行う際には、児童生徒の負担が過重にならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げるといった観点から適切に取り入れることが大切。」とあり、学習内容（知識・技能）の確実な習得のための、「個別最適な学び」の実現が求められている。

そこで、本研究では、教師は一斉指導のみで習得させるのではなく、時に学びを支える伴走者として児童生徒の主体的な学びを支援したり、知識・技能の習得のためにどのような学びの進め方や思考の仕方（思考ツールの活用）が効果的かを伝えたり、一緒に考えたり、あるいは、教師自身も学習者の一人として一緒に学習したりするなど、児童生徒の発達の段階や学習課題などに合わせた柔軟な指導・支援をしながら、学習内容の確実な定着につなげていきたい。また、その際、ICT 機器を有効に活用し、一人一人の学びに適した「個別最適な学び」の実現を目指していく。

- ・学習指導要領の着実な実施（全ての児童生徒の学習内容の確実な定着）
- ・ゴールに向かう学習の進め方や思考の仕方（思考ツールの活用や情報活用能力の向上など、学習方法の獲得）
- ・授業と宿題の役割を反転させる反転授業（授業外での動画視聴や、対面授業を最大限に活かす授業展開）
- ・ループリックを活用した、自己評価・相互評価（習得すべき知識・技能の明確化）
- ・全ての児童生徒が「おおむね満足できる」状態にする指導・支援（個に応じた指導・個別最適な学び）

### （4）思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用と教科等横断的な学習（活用）

総則では、「児童生徒が「理解していることやできることをどう使うか」に関わる「思考力、判断力、表現力等」は、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能

をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますその重要性は高まっている。答申においても、「知識及び技能の習得や活用の喜び、充実感を味わう活動を充実させることが重要である。」とあり、思考力・判断力・表現力等の育成のためには、知識・技能を活用することが求められている。

また、総則には「今回の改訂においては、次項のとおり、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点に立って育成することを規定している。」  
「各教科等で身に付けた資質・能力を様々な場面で統合的に働かせることができるよう、知識と生活との結び付きや教科等横断的な視点を重視した教育を行っていくことが必要。」ともある。また、答申の中でも「新学習指導要領では、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされており、その充実を図ることが必要である。具体的には言語能力については、まず、教科学習の主たる教材である教科書を含む多様なテキスト及びグラフや図表等の各種資料を適切に読み取る力を、各教科等を通じて育成することが重要である。(中略)コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりといったことができる力、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得を含めた情報活用能力を育成することも重要である。」とあり、各教科で身に付けた資質・能力を活用したり、資質・能力を活用して活動したりすることで学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に立って育成することが求められている。

そこで、本研究では、学習する単元や学習のまとまりの中で、各教科等で身に付けた知識・技能を活用して新たな知識・技能を獲得させたり、教科等横断的な視点に立った指導を行いながら、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる力の育成を図ったりしていく。

児童生徒に知識・技能を活用させながら学習を進めることで、新たな知識・技能を得ることができることや、様々な資質・能力の向上につながることを実感させながら、未知の状況にも対応することが思考力・判断力・表現力等の育成を目指していきたい。

- ・新たな知識・技能の習得に向けた、既得の知識・技能の活用（習得すべき知識・技能と既得の知識・技能との関わり）
- ・粘り強く未知の状況に取り組む態度の育成（未知の状況に個別的に、協働的に向かう児童生徒の育成）
- ・各教科の教科書等を読解できる言語能力の育成（国語科を中心とした言語能力の活用、発揮）
- ・課題解決に向けた情報活用能力の育成（一人一台端末の効果的な活用）
- ・教科等横断的な学習による、学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成（育成を目指す資質・能力の明確化）
- ・教科間の関係性を深める合科的・関連的な指導や、各教科の見方・考え方の発揮（教科間の関わり方の明確化）



## 学習の個性化 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

### (5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）

総則では、「深い学び」の視点に関して、各教科の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能をすでにもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。「各教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に留意しつつ、児童生徒の興味・関心を生かした学習指導を展開することが大切である。児童生徒の興味・関心を生かすことは、児童生徒の学習意欲を喚起する上で有効であり、また、それは自主的、自発的な学習を促すことにつながると考えられるからである。この意味で各教科等の指導においては、学習することの意味の適切な指導を行いつつ、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、自主的、自発的な学習を促すことによって、児童生徒が学習の目的を自覚し、学習における進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度が育つよう配慮することが大切である。」とある。また、答申では「児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすという観点から、新たな ICT 環境や先端技術を最大限活用することなどにより、基礎的・基本的な知識・技能や言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成が行われるとともに、多様な児童生徒一人一人の興味・関心に応じ、その意欲を高めやりたいことを深められる学びが提供されている。」「修得主義の考え方と一定の期間の中で多様な成長を許容する履修主義の考え方を組み合わせ、「学習の個性化」により児童生徒の興味・関心等を生かした探求的な学習等を充実すること」とあり、各教科で身に付けた資質・能力や見方・考え方、教科等横断的な学習を通して身に付けた資質・能力を活用して探求的な学習等を充実させることが求められている。

そこで、本研究では、それぞれの興味・関心を生かした学習や児童生徒による課題選択の場などを、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等に設定するなどしながら、各教科の見方・考え方を働かせた活動や学習の基盤となる資質・能力を効果的に活用・発揮する時間や場面を設け、学習内容の深まりや広がりへとつながる、より深い学びを目指していきたい。

- ・問題発見・解決能力の育成（実社会や実生活から課題を発見する学び）
- ・自主的・自発的な学び（自己の興味・関心を生かした学習場面の設定）
- ・学習の基盤となる資質・能力の活用・発揮（活用できる資質・能力の自覚）
- ・総合的な学習の時間や特別活動の時間による課題選択の場の設定（学びを生活に生かす体験）
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を活用することの喜びを得られる学び（自己のキャリア形成との関わり）

### (6) 自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）

総則では、「今回の改訂においても、引き続き児童生徒の学習意欲の向上を重視しており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たって、特に主体的な学びとの関係からは、児童生徒が学ぶことに興味や関心をもつことや、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげることなどが重要になる。（中略）具体的には、例えば、各教科等の指導に当たっては、児童生徒が学習の見通しを立てたり、児童生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設けることや、児童生徒が家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり学習した内容を振り返って復習する機会を設けることなどの取組が重要である。これらの指導を通じ、児童生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上が図られ学習内容が確実に定着し、各教科等で目指す資質・能力の育成にも資するものと考えられる。」とあり、学習内容や学習習慣の定着のために、学習を振り返ることで児童生徒に「学びの自覚」を促すことが求められている。またその具体的な方法として「自分の思考や行動を客観的に把握し認識するいわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社

会や生活の中で児童生徒が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見出したりできるようにすることにつながる重要な力」と、「メタ認知」について触れられており、「メタ認知能力」の向上も求められている。

そこで、本研究では、1単位時間または、単元や学習のまとまりの中で、学習の成果や課題、自己の変容を自覚できるような時間や場を設定し、自分の学びの過程や成果、課題等をメタ認知することを通して、自らの学びを自覚させることにより、学習内容の定着はもとより、次の学びに向かう態度や学習習慣の定着につなげられるようにしていきたい。

- ・学習を振り返る場面の設定（学習の成果や課題、自己の変容の自覚）
- ・客観的に自己の状況を把握する自己評価や相互評価（メタ認知能力や自己分析能力の育成）
- ・課題解決ができなかった時の自己の状況の認知（自己の間違いの修正）
- ・次の学習に向けた学習行動の選択（学習行動の広がりや深まり）

### （7）自己のキャリア形成とのつながり（キャリア形成）

総則では、「児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図ることを示している。（中略）また、将来の生活や社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。」とある。また、答申でも「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」「キャリア教育の充実に当たっては、小学校から高等学校までを通じ、各教科等での指導を含む学校教育全体でその実践を行いつつ、総合的な学習の時間において教科等を横断して自ら学習テーマを設定し探究する活動や、特別活動において自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価する学習活動を充実していくことが求められる。」とあり、学習したことが児童生徒の生活や社会とどのような関わりがあるのか、また、自身のキャリア形成にどのような影響があるのかなど、学習したことと自己の生活や将来とをつなげていくことが求められている。

そこで、本研究では、特別活動の学級活動を要としながら、学習したことが社会や「大人の世界」（職業）とどうつながっているのかを意識させたり、自己の生活や将来との接点について考えたりしながら、学びを自分たちの暮らしや社会やより広い世界、未来へとつなげることができるようにしていきたい。

- ・学習と自らの将来・生活または、社会との関係の想像（自己のキャリア形成との関わり）
- ・自己の生活における育成された資質・能力の活用（学校や学級での活用・発揮）
- ・児童生徒に成長の自覚を促す教師の関わり（教師による肯定的な対話的な関わり）

**(1) 教師の児童生徒への関わり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）**

答申では、「新型コロナウイルス感染症対策に伴い臨時休業が行われる中、学びを保障する手段としての遠隔・オンライン教育が注目されるとともに、教師による対面指導や、子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動など、リアルな体験を通じて学ぶことの重要性も改めて注目された。子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められる。」「教師が技術の発達の新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。」「AI技術が高度に発達する時代にこそ、教師による対面指導や児童生徒同士による学び合い、地域社会での多様な学習体験の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICTも活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することが求められる。」「教師は、授業研究の積み重ねにより、「子供はいかに学ぶか」「どう支援するか」を問い直していく。」とあり、教師に求められるものとして「壇上の賢人」だけではなく、「子供の学びを支援する伴走者」としての役割も求められるようになってきた。

そこで、本研究では、児童生徒が考える場面と教師が教える場面を効果的に組み合わせながら、単に知識・技能を伝えるのではなく、児童生徒の思考力が高まるような発問の工夫や、児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者としての役割、教師と児童生徒が一緒になって課題解決を目指す学習、教師が一番熱心に課題に取り組むなど、教師が学級や児童生徒の発達の段階や実態に応じて、柔軟にその役割を変化させながら児童生徒と関わったり、児童生徒と児童生徒をつなげたりしながら資質・能力の育成や、学習意欲の向上のための学習の効果の最大化を図っていきたい。

- ・思考力が高まる発問の工夫（1問1答ではない、思考が深まる広がる発問づくり）
- ・児童生徒の学びを支援する伴走者としての教師の役割（考えさせる場面と教える場面の組み合わせ）
- ・児童生徒と児童生徒、児童生徒と教材等をつなぐ（ファシリテーター（進行役）としての教師）
- ・子どもと一緒に学ぶ探究的な学び（自ら興味・関心を持ちながら周りを巻き込むジェネレーターとしての教師）

**(2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）**

総則では「児童生徒一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ、生徒指導の重要な目標の一つである。」とあり、教師には児童生徒が自分らしさを発揮でき、のびのびと過ごせる楽しい学級づくりや環境づくりが求められている。また、答申では「学習内容の理解を定着する観点からは、単に問題演習を行うのではなく、内容を他者に説明するなどの児童生徒同士の学び合いにより、児童生徒が自らの理解を確認し定着を図ることが、説明する児童生徒及びそれを聞く児童生徒の双方にとって有効であり、授業展開としても重要であると考えられる。」「各児童生徒が深めた学習の成果を持ち寄って共有し、児童生徒の学び合いを行い、また、その結果を各自で深めるといった循環を作っていくことが大切である。」とあり、「個別最適な学び」が「孤立した学びに」となることがないようにすることが求められている。

そこで、本研究では、互いに意見を受け入れ、認め合えるような、安心安全な場としての教室づくりや、それぞれが自分の意見を伝え合うことで、多様な他者の多様な意見に触れることが、自分の考えを深めたり広げたり

することにつながるということを実感させるのとともに、多様な他者を価値のある存在として尊重する態度へとつなげていきたい。

- ・他者の多様な意見に触れる学習（個別最適な学びを生かす授業展開）
- ・多様な意見を認められる態度の育成（学級内における支持的風土の醸成）
- ・他者の視点や、価値等を用いて考えられる場の設定（他者の立場に立ち、考えを広げる児童生徒の育成）
- ・広がりや深まりに向けた学習の成果の共有（多様な他者を価値のある存在として認める態度の育成）

### （３）課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）

総則では「変化の激しい社会の中で、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、児童生徒一人一人が育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが大切である。」としている。また、答申にも「ICTの活用により、子供一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編成作業等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」もまた発展させることができる。」「発展的な学習としては、内容理解を深める学習を更に充実させることが重要であるが、その際には、個別学習のみで学習を終えることにならないように留意し、学校ならではの「協働的な学び」が取り入れられるよう教育活動を工夫する必要がある。」と書かれており、多様な他者との協働的な学びを通して、学びを深めたり、合意形成を図ったりすることが求められている。

そこで、本研究でも、各教科や総合的な学習の時間や特別活動等で、探究的な課題やそれぞれの学校・学級の諸問題に協働的に取り組むなどしながら、最適解・納得解を導き出す経験を通して、多様な人々と協働して様々な社会的変化を乗り越えようとする態度へとつなげていきたい。

- ・集団で一つの解に向かう探究的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ・それぞれの考えや意見を集団の向上につなげる協働的な学び（自他の考えを結合し、よりよい考えにしようとする協働的な学び）
- ・学校行事、学級での活動等における目標の達成に向けた協働的な学び（集団の中での試行錯誤の経験）

### （４）学校の特徴に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）

総則では、「今回の改訂においては、前述の児童生徒を取り巻く環境等を踏まえ、児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるようにすることを重視し、集団の中で体系的・継続的な活動を行うことのできる学校の間を生かして、地域・家庭と連携・協働して、体験活動の機会を確保していくことを示している。」また、答申にも「人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠であり、知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するsociety5.0時代にこそ一層高まる。」と書かれており、地域や家庭との連携や学校や地域の特徴を生かした活動や、リアルな体験活動を充実させることが求められている。

そこで、本研究では、総合的な学習の時間や特別活動等において、学校や地域の特徴に応じた課題を設定するなどし、異学年合同での学習、小中連携、合科的・関連的な学習などの各学校・地域の実態に応じた体験活動を充実させながら、資質・能力の育成を目指すのと同時に、身近な地域の魅力や課題などを知り、地域の構成員の一人としての意識が育成されることにつなげていきたい。

- ・学校の規模、地域の実態等に応じた体験活動（体験することで得られる学びの充実）
- ・小中連携や、合科的・関連的な学習などの“つなぐ”学習（学びが繋がっていく体験）
- ・地域の発展に寄与しようとする態度の育成（住んでいる地域の課題について考える場の設定）

## 4 学習指導案の型

### 生活科学学習指導案

日時 令和 年 月 日 ( ) 校時

児童生徒 △△小学校 第 学年 名

指導者 ○○ ○○

1 単元名 きせつとなかよし はるとなつ

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に作成

2 単元の目標

春や夏の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、春や夏の特徴や違いを見つけることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにするのとともに、1学期の自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなど、自分のことについて考え、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に作成

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>春や夏の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付いている。また、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったことや自分でできるようになったことなどが分かっている。</p>	<p>春や夏の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、春や夏の違いや特徴を見つけ、遊びや遊びに使うものを工夫して作っている。また、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことについて考えている。</p>	<p>春や夏の自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節を生活に取り入れ、みんなと遊びを創り出そうとしている。また、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。</p>

指導書を参考に、既習事項との関連、育成したい資質・能力を明確にする。「なぜ、この教材なのか。」ということが分かるように書く。

4 教材について

本単元までに、児童たちは、学校探検を通して、小学校という新しい環境や友達との出会いを経験し、何かを発見すること、友達と一緒に遊ぶことの楽しさに気付いている。児童たちの目が学校から地域へと広がりつつあるこの時期、体を使って春を探したり、草花を使って遊んだりすることは、知的好奇心をかきたて、季節感を養うことにつながる。草花や生きものの様子を調べたり確かめたりしたいという願いをもてるようにし、物事を比較して季節変化を捉える見方の基礎を身に付けさせたい。雨の日にはできない遊びや暑い時期にはできない遊びをダイナミックに楽しませたい。また、自分自身の生活や成長を振り返りながら、それぞれのよさに気付くとともに、その後に始まる夏休みへの意欲をもたせたい。

## 5 児童（生徒）の実態

少人数ではあるが互いに関わり合い、仲良く過ごすことができている。学習の時間にも意欲的に活動する児童が多い。一方で平仮名の習得に時間がかかる児童や、音読がたどたどしくなってしまう児童もいる。教科等横断的な学びの充実を図りながら、学習の基盤となる資質・能力の育成を目指していきたい。

生活科の学習では、児童はこれまで、学校探検を通して、学校には、目的に応じて様々な教室があることや、勉強を教える教師だけでなく、自分たちの安心・安全な生活を支えるために、様々な人がいることに気付いている。また、日々の生活の中で、友達と生活や学習を共にすることで、友達と一緒に活動することのよさについて気付いている児童も多い。

本単元では、学校を飛び出し、地域の公園でダイナミックに遊んだり、季節や天気を越えて遊んだりすることを通して春と夏の変化について考えたり、雨の日や晴れの日の違いについて考えたりしながら、季節の変化の不思議さや面白さなどに気付かせていく。季節や天気による違いや、それぞれが気付いたこと、自然物を使って制作したものを画像として残したり、遊ぶことの先の目標を意識させたりしながら、活動したことの意義を感じさせたり、それぞれの学びを自覚させたりしていきたい。

## 6 研究の視点との関わり

(1)と(2)の視点について、書ける視点は全て書く。  
(当該単元で設定が難しい場合は省略してもよい)

### (1) 視点1 個別最適な学び

- ①教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- ②学習計画（学習の見通し）
- ③知識・技能の確実な習得（習得）
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探究的な学び（探究）
- ⑥自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- ⑦自己のキャリア形成とのつながり（キャリア形成）

①遊ぶ活動が多くなるが、それぞれの活動のねらいは何か、どんな力を身に付ける活動なのかということ、児童に分かる言葉に変換しながら、学習の意義や価値を実感させたい。また、途中ルーブリックを活用しながら、形成的評価を行う。児童の実態や目標に応じて、一人一人が育成すべき資質・能力を獲得することができるよう単元を通して支援していきたい。

②単元の初めに、単元を通じて身に付ける資質・能力の確認を行う。単元の目標や評価規準と各活動との関連を教師と一緒に確かめながら行うことを通して、本単元で身に付けるべき資質・能力を明確にするのと同時に、児童に単元全体の見通しを立てさせたい。また、学習したことが、小学生になって初めて迎える夏休みへの意欲へとつなげることで、学習が自己の生活とつながりがあることを意識させたい。

③本単元で身に付ける知識・技能は自然に関わることやルール、自己の成長に関わることなど多岐にわたる。どれも社会生活を行うことや、3年生以降の学習につながる重要な知識・技能である。一つ一つの知識・技能を確実に身に付けさせるために“体験する”ということを大切にしながら学習を進めていきたい。体験を通して、得たものを絵や文で表現したり、考えさせたりすることを通して、実感させ、他の学習や生活で生かせるような生きて働く「知識・技能」となるよう支援していきたい。

④本単元では、習得した知識・技能を活用して次の活動を行っていく。習得→活用を繰り返す中で、習得した知識・技能の深化や、習得した知識・技能を活用することが次の学習に生きてくることを実感させたい。また、国語科や図画工作科など、様々な教科等で習得した知識・技能を横断的に活用することにより、学習の基盤となる資質・能力の育成を図るとともに、特徴を捉えることや工夫すること、自分を振り返ることな

どの活動を充実させながら単元の目標を達成させたい。

- ⑤習得した知識・技能や、知識・技能の活用を通して育成された思考力・判断力・表現力等を活用しながら、各活動の最後には探究的な活動を行う。それぞれの興味・関心に応じた活動を行うことや、自己の生活に生かそうと計画することを通してよりよい自ら学びに向かう力や、生活に生かそうとする主体的な態度へとつなげていきたい。
- ⑥各活動の最後には、活動を表現する時間を設ける。絵や文などを用いて表現し、それを友達と共有することを通して、学習の成果を実感させたい。また、同時にそれぞれの活動によってどんな気づきがあったのかを振り返ることを通して自覚させ、学習への意欲へとつなげていきたい。
- ⑦単元の最後に、小学生になって初めて迎える夏休みについて見通しをもつ時間を設ける。1学期間を通じて学んできた生活科の学習をどのように自分の生活に関わらせることができるのかを考えさせることを通して、学習と生活をつなげていきたい。

## (2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の児童生徒への関わり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
  - ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
  - ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
  - ④学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）
- 
- ①児童の実態として、生活経験に差が見られるため、教科書に書かれている内容については確実に体験させる。一般的な遊びについて一斉に体験させることで次に向かう意欲へとつなげていきたい。その後は、一人一人の児童と関わりながら、それぞれの児童が自分で図書を使って調べたり、児童同士で話し合ったりする活動を通して新たな遊びや活動を創造しようとする主体的な態度へとつなげていきたい。
  - ②学習の成果を表現する活動を通して、互いの学習の成果を共有できるようにする。このことにより、学習の深化や拡充を図るとともに集団で学習することのよさの実感へとつなげていきたい。
  - ③遊びの中に、個人で楽しむことと、集団で楽しむことを考えさせる。それぞれの立場や能力を考えさせながら、話し合いを通じて一つの遊びを決定することを通して、最適解や納得解を導き出す経験を積ませるとともに、集団生活を送る中でのルール作りの素地を養いたい。
  - ④地域にある公園や校内の施設を使って活動することを通して、地域や学校への愛着をもたせるのと同時に、普段遊んでいるときには気付くことができなかった高次な気づきを促すことができるよう、一人一人の興味関心に応じて声を掛けたり、児童同士で指摘し合ったりさせていく。教師と児童、児童と児童の協働的な学びを通じて一人一人の個別の学びの充実に向けた支援をしていきたい。

- ・一番左には「計画」「習得」「活用」「探究」「自覚（学びに向かう力・人間性等）」学習の段階を書く。
- ・課題は、本時の評価規準（目標）を子供の実態に応じて、子供が取り組みやすい表現で書く。
- ・育成を目指す資質・能力については、教科等横断的な学習についても書く。
- ・それぞれの活動が個別最適な学びと協働的な学びか、それとも一体的かを示す。
- ・評価方法については、別紙、研究の具体「学習評価（見取り）の仕方は？」を参考にして記載する。（あくまでも参考。実態に応じて書く）

## 7 単元の指導計画（12時間）

### （1）児童の学習計画

	時数	育成を目指す 資質・能力	主な学習内容および学習活動 [ ] 学習形態 <input type="checkbox"/> 課題 <input type="checkbox"/> まとめ 【 】 他教科との関わり	■評価規準 ( ) 評価方法 【 】 研究の視点
計画	3	問題発見・ 解決能力 (思考力・ 判断力・表 現力)	1、単元を通じて身に付ける資質・能力の確認。[個] ・単元の目標や評価規準を教師と確かめる。 2、本単元における学習活動を目標や評価規準と照らし 合わせながら聞く。[個] ・公園で遊具や自然物を使って遊ぶ ・生き物を探す ・雨の日と晴れの日以外で遊ぶ ・1学期の自分を振り返る。	■本単元で学習していくこと を教師と一緒に確認し、学 習内容を見通している。 (授業中の発言) 【視点(1)①②】
習得		知識・技能	<input type="checkbox"/> こうえんであそぼう 3、野原や公園でどんな遊びがしたいか考える [個・協] 4、公園へ行く道での歩き方を確認する。[個・協] 【特別活動との関わり①】 5、公園で遊ぶときの約束、注意を確認する。[個・協] 【道徳との関わり②】	■遊ぶ際の、ルールやマナー について理解している。 (授業中の発言・自己評価) 【視点(1)①③】 【視点(2)①③】
活用		思考力・判 断力・表現 力 その他(現代的な課題 に対応して求められる 資質・能力等)②	6、2～5の約束を守りながら、公園へ出かけて遊ぶ <input type="checkbox"/> あそぶときにはルールやマナーをまもる [個・協]	■四季の変化や季節の特徴を 確かめたり、遊びや遊びに 使うものを工夫して作っ たりしながら、自然を楽しん でいる。 (行動観察) 【視点(1)①④】 【視点(2)①③④】
探究		学びに向 かう力・人 間性等 言語能力 ②④	7、それぞれの興味・関心に応じて、公園にあるものを見 つけたり、数えたりする。[個・協] 【算数科との関わり①】 8、楽しかったことや発見したことを伝え合う。[協] 【国語科との関わり①】	■身近な自然の様子や季節の 特徴に応じながら、それら と適切に関わって遊ぼうと している。(行動観察・グル ープでの話し合い) 【視点(1)①⑤⑥】 【視点(2)①②】
習得	1	知識・技能 情報活用 能力①② 言語能力 ②④	<input type="checkbox"/> はるにさく くさばなであそぼう 1、草花で遊んだ経験を思い出す。[個] 2、友達に経験を話す。[協] 3、草花を触ったり、においをかいだり、カメラで記録に 残したりする。[個・協] 4、見つけた春のことや楽しかったことを友達に伝える。	■草花や生き物を探して遊ぶ 楽しさや、草花で工夫して 遊びを創り出すおもしろさ に気付いている。(グルー プでの話し合い・ワークシ ート・写真) 【視点(1)①③】



		<p style="text-align: center;">[協]【国語科との関わり①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>くふうすると はるのくさばなで いろいろなあそびを することができる。</p> </div>	<p style="text-align: center;">【視点（２）①②④】</p>
活用	1	<p>思考力・判断力・表現力 情報活用能力①②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>はるになかったものをみつけよう</p> </div> <p>1、春に公園で見つけたものを思い出す。[個] 2、どこにどんな生きものがいたか発表する。[協] 3、春と比べて、夏は何が違うのかを考える。[個] 4、春になかったものを見つけに行き、カメラで撮影する。[個・協] 5、見つけた夏のものや楽しかったことを友達に伝える。 [協]【国語科との関わり①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>はるにくらべるとなつはあつくて、むしがいっぱいいる。</p> </div>	<p>■春と夏の違いや特徴を見つけながら遊んでいる。(授業中の発言・発表・ワークシート) 【視点（１）①④】 【視点（２）①③④】</p>
計画	4	<p>問題発見・解決能力① (思考力・判断力・表現力)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>あめのひと、はれのひを くらべよう</p> </div> <p>1、学習のまとまりの中で行う学習活動について知り、学習の見通しをたてる。[個・協] ・雨の日と晴れの日の違いについて考える。 ・雨の日に外で見つけたものについて、詩や作文を書く。 ・晴れの日思い切り泥遊びや、水遊びをして、気付いたことや楽しかったことを絵と文で表現する。 2、雨の日と、晴れの日それぞれしたい遊びを考え、遊びや、遊びに使うものを選ぶ。[個・協] 3、音やにおいなど、雨の日と晴れの日の違いの予想をする。[個]</p>	<p>■学習していくことを教師と一緒に確認し、学習内容を見通している。(授業中の発言) 【視点（１）①②④】 【視点（２）①②③】</p>
習得		<p>知識・技能</p> <p>4、計画した雨の日のできる外遊びをし、予想したことを確かめる。[個・協] 5、晴れの日のできる外遊びをし、予想したことを確かめる。[個・協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>あめのひはさむくて、はれのひはあたたかい。むしのいるばしょも、ちがう。</p> </div>	<p>■雨の日と晴れの日気温や湿度、過ごし方、生きものがいる場所の違いなどに気づき、自然の中のきまり、自然事象の不思議さに気付いている。(行動観察) 【視点（１）①③】 【視点（２）①②③④】</p>
活用		<p>思考力・判断力・表現力 言語能力①③ その他(現代的な課題に対応して求められる資質・能力等)①</p> <p>6、実際に遊んだことをもとに、自分が感じ取ったことや気付いたことを絵や文、詩で表現する。[個] 【国語科との関わり②】 【図画工作科との関わり①】</p>	<p>■春や夏の違いや特徴を見つけたり、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったりしたことから、自分が感じ取ったことや気付いたことを、絵や文、詩で表現している。(表現物) 【視点（１）①④】</p>
探究		<p>学びに向かう力・人間性等</p> <p>7、学習したことをもとにそれぞれの家庭での遊び(両親や兄弟などとの遊び)に、生かそうとしたり、工夫を加えようとする。[個]</p>	<p>■夏の遊びを考えながら季節を生活に取り入れようとしている。(授業中の発言・表現物) 【視点（１）①⑤⑦】</p>
自覚	1	<p>学びに向かう力・人間性等(学びの自覚・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>はる・なつとあそんでかんじたことをつたえあおう</p> </div> <p>1、これまで書きためていたワークシートを読み直す。</p>	<p>■よりよい生活や人間関係を自主的に形成しようとしている。(グループでの話し合い・ワークシート)</p>

		自己のキャリア形成とのつながり) 言語能力 ①③	<p>[個]</p> <p>2、春と夏を比べて気付いたことを友達と伝え合う。[協]</p> <p>3、春と夏をそれぞれ一言で表現する。[個]</p> <p>4、単元を通して遊んだことを使って、夏休みにしたいことを考える。[個]</p> <p>【国語科との関わり①②】</p>	<p>【視点(1) ①⑤⑥⑦】</p> <p>【視点(2) ①②】</p>
自覚	1	学びに向かう力・人間性等(振り返り)	<p>にゆうがくしてからをふりかえろう</p> <p>1、4月に入学してから、今までの生活やできごとを思い出す。[個・協]</p> <p>2、入学前の自分と今の自分とを比べて、変わったことを考える。[個]</p> <p>3、自分ができるようになったことを絵日記で表す。[個]</p> <p>4、これからの生活(夏休み)で頑張りたいこと伝え合う。[協] 【国語科との関わり①②】</p>	<p>■入学してからの自分自身や出来事を振り返って、これからの成長に願いをもって意欲的に生活しようとする。(授業中の発言・表現物)</p> <p>【視点(1) ①⑤⑥】</p> <p>【視点(2) ①②】</p>
探究	1	学びに向かう力・人間性等	<p>なつやすみをげんきにすごそう</p> <p>1、夏休みにしたいことを考える。[個]</p> <p>2、生活科で学習したことの中から、夏休みに生かせそうなことを考える。[個]</p> <p>3、元気に過ごすために大切なことについて考える。[個・協] 【特別活動との関わり②】</p> <p>4、夏休みの計画を立てる。[個]</p> <p>【道徳との関わり①】</p>	<p>■よりよい生活(夏休み)を自主的に形成しようとしている。(表現物)</p> <p>【視点(1) ①⑦】</p> <p>【視点(2) ①②】</p>

別紙、研究の具体「教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力とは？」を参考に記入する。  
※すべて書かなくてもよい。

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	その他(現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等)
知識・技能		①情報技術を適切に活用するための技能		
思考力・判断力・表現力	①感情や想像を言葉にする力 ②他者とのコミュニケーションを図る力		①物事の中から、問題を見いだす力	①郷土や地域に関する教育 ②環境に関する教育
学びに向かう力・人間性等	③言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げる力 ④体験したことや感じたことを言葉にしようとする力	①問題解決・探究における情報活用の態度		

学習指導要領の内容から抜粋して記載する。  
※すべて書かなくてもよいが、関連付けられそうなものだけ書くようにする。

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	算数	生活	道徳
①話すこと・聞くこと(1)イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ②書くこと(1)イ	①A数と計算(1)(ア) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。		①[節度、節制] 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。			② [規則の尊重] 約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること。
図工	音楽	体育	特別活動
① A表現(2)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。			①交通安全青空教室 ②各種保健指導

## 8 本時の実際

「7 単元の指導計画(1) 児童の学習計画の評価規準」を本時の目標として設定する。

### (1) 本時の目標

雨の日と晴れの日の気温や湿度、過ごし方、生きものがいる場所の違いなどに気付き、自然の中のきまり、自然事象の不思議さに気付いている。(知識・技能)

「○おおむね満足できる」状況は、本時の目標を基に作成する。「◎十分満足できる」状況については、児童の学習負担にならないよう程度の高次のものを設定する。

### (2) ルーブリック(評価基準)

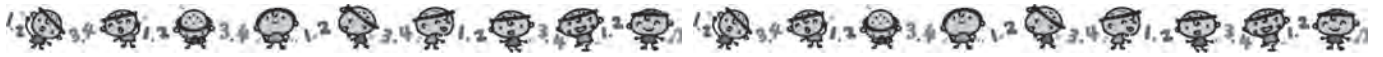
評価基準	児童の学習状況
◎「十分満足できる」状況	雨の日と晴れの日の気温や湿度、過ごし方、生きものの違い、自然の中のきまり、自然事象の不思議さなどについて、自分の予想と体験した結果を比較しながらその違いに気付いている。
○「おおむね満足できる」状況	雨の日と晴れの日の気温や湿度、過ごし方、生きものの違いなどに気付き、自然の中のきまり、自然事象の不思議さに気付いている。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	雨の日に撮影した写真を見せながら、違いについて考えさせる。

- ・課題とまとめは、単元計画と同じように囲む。
- ・過程は「導入」「展開」「終末」を基本とする。
- ・課題は本時の目標と正対するまとめの活動にする。
- ・本時の評価規準と評価方法の具体を評価場で記載する。
- ・全ての児童生徒が本時の目標を達成できる手立てを記載する。
- ・ICTを活用する場面を必ず設け、「◇教師の主な働きかけ」に記入する。

### (3) 本時の展開(8・9/12)

過程(分)	○主な学習活動【】活動形態 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 ( ) 評価方法 【】研究の視点 ▲努力を要する児童への手立て
導入(5分)	○前時までの学習を振り返る。 【個・協】 ・この学習は、雨の日と晴れの日を比べる学習だ ・前の時間は雨の日に遊んだよ ・雨が傘に当たると「ぼぼぼ」と音がしたよ。	◇自分が体験したことを発表させる。 *体験だけではなく、見つけたもの、聞いたことなど、五感を通じて感じたことを発表させる。	【視点(1)②】

	<p>・カタツムリが葉っぱの上 にいたよ。</p> <p>○学習課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>あめのひと、はれのひを くらべよう</p> </div> <p>○ループリックを確認し、本時 の目標を明確にする。</p>	<p>◇遊ぶだけでなく、雨の日 と晴れの日を比べるための活 動であることを伝える。</p> <p>*空や地面の色、服装、触った感 触、温度など、比較するための 観点を与える。</p> <p>◇児童に分かるように説明す る。</p>	
展開 (70分)	<p>○計画した晴れの日のできる遊 びを行う。【個・協】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場で川と山を作る。</li> <li>・泥団子を作ろう</li> <li>・シャボン玉で遊ぼう</li> <li>・水鉄砲で遊ぼう。</li> <li>・生き物を探そう</li> </ul>	<p>◇友達が嫌がることをしないな ど基本的なルールを確認して から遊びに入る。</p> <p>◇子供の様子、晴れの日の特徴 がよく表れている場面を写真 や動画にとっておく。(ICT の 活用)</p>	<p>■雨の日との違いに気付いてい る。(行動観察)</p> <p>▲遊びに夢中になりすぎている 児童には、遊んでいる遊びが雨 の日のできるか尋ねるなど、雨 の日との違いを意識させる。</p> <p>【視点(1)①③】</p> <p>【視点(2)①②】</p>
終末 (15分)	<p>○楽しかったことを発表する 【協】</p> <p>○雨の日との違いで、気付いた ことを発表する。</p> <p>【協】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空は青空だった</li> <li>・雨の日は雨合羽を着ていたが、 晴れた日は着ていない。</li> <li>・地面を触ると雨の日は冷たか ったけど、晴れの日は熱かっ た。</li> </ul> <p>○まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>あめのひはさむくて、はれの ひはあたたかい。むしのいる ばしょも、ちがう。</p> </div> <p>○学習を通して得た気づきを絵 や文で表現しながら、学習の 振り返りを行う。【個】</p>	<p>◇ベン図を用いて、子供たちの 発表を黒板にまとめていく。</p> <p>◇教師の撮った写真(雨の日の ものを含む)を参考にさせな がら、晴れの日と雨の日との 違いに気付かせる。(ICT の活 用)</p> <p>◇予想と結果を比較したり、友 達と共有したりしながら、学 習の成果を実感させる。</p>	<p>■雨の日との違いに気付いてい る。(発表)</p> <p>▲雨の日に行った具体的な姿を 想起させる。</p> <p>【視点(1)⑥】</p> <p>■雨の日との違いに気付いてい る。(成果物)</p>



# Ⅲ 研究員の実践



## 提案授業

○留萌市立緑丘小学校 第3学年 算数科「分数」

佐藤 豪 研究員

## 算数科学習指導案

日時 令和 3年 11月 18日(木) 5校時

児童生徒 緑丘小学校 第3学年 23名

指導者 佐藤 豪

### 1 単元名 分数

### 2 単元の目標

- ・等分してできる部分や端数部分の大きさを表すのに分数を用いることや分数の表し方、分数は単位分数のいくつ分で表すことについて知っている。(知識・技能)
- ・簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知っている。(知識・技能)
- ・数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えているとともに、分数を日常生活に活かしている。(思考・判断・表現)
- ・分数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元の評価規準(具体的な内容のまとまりごとの評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知っている。 ②分数が単位分数のいくつ分かで表すことができることを知っている。 ③同分母分数の加法及び減法の意味について理解している。 ④真分数どうしの加法および減法、和が1までの加法とその逆の減法の計算の仕方を知っている。	①同分母どうしの場合は、単位分数の個数を基に、分子の大きさを比べることができることに気づき、分数の大きさを比べている。 ②単位分数のいくつ分と見ること、整数と同じように処理できることに気づき、同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。 ③同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方について、日常生活における場面を基に考えたり、図に表して考えたりしている。	①分数に進んで関わろうとしている。 ②端数部分の大きさを分数を用いて表そうとしている。 ③数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかを考えようとしている。 ④身の回りから、分数が用いられる場面を見付けようとしている。

### 4 教材について

2学年では、折り紙や紙テープなどの具体物を折ったり切ったりして等分する活動を通して、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ などの簡単な分数を扱い、「分数」の用語を導入した。しかし、この段階では、分数について理解するための素地的な活動が中心であり、本格的な指導は本単元から始まる。

初めに、2学年の学習をふまえ、4等分した長さの「もとの長さ」に着目させて、 $\frac{1}{4}$ mという量としての分数を指導する。この段階では児童は $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{4}$ mについて明確な区別がついていないと考えられるため、1mのテープと90cmのテープを4等分して長さを比べる活動を設定する。同じ4等分( $\frac{1}{4}$ )であっても、もとの大きさによ

て長さが異なることを実感的に理解させ、既習の分割分数との違いを理解させたい。

練習問題などで児童に自由に分母や分子の数を設定させ、どのような数でも表せることを経験することで1 mや1 Lの単位に満たない端数部分の大きさを表すことができるという分数のよさについて理解を深めながら、単位分数のいくつ分で表すという分数の特徴や、その大きさを捉えさせていく。

単位分数の個数が分母の数と同じ場合、1と等しい大きさになることについては、単元の初めに作った $\frac{1}{4}$ mのリボンを使い、 $\frac{1}{4}$ mの4つ分が $\frac{4}{4}$ m(=もとの1 m)になることを説明し、学習につながりをもたせる。また、90 cmの $\frac{1}{4}$ であっても、4つ分で $\frac{4}{4}$ (=1)となることにも触れ、量分数だけではなく分数そのものが単位分数のいくつ分で表され、1と等しい大きさとなることについて理解を図る。

また、数直線に1より大きい数のめもりを設定することで児童の問いを生み出し、1より大きい分数があることについても触れる。分子の数は整数と同様に並んでいることに気付かせ、整数と同様に考えることができるという理解につなげたい。

さらに、簡単な同分母の分数の加法、減法についても指導する。間違っただけの計算の仕方を提示しそれを指摘させることで、分数の意味や表し方をもとに、図なども用いながら子どもが自ら計算の仕方を考えられるように学習活動を設定する。もとになる分数に着目させ、単位分数が同じだから分子の数の計算だけでできるという分数の加法や減法の意味を確実に説明することで、理解を図りたい。「分子の数を計算すればいい」という形式的な理解とならないように留意したい。

なお、単元で使用する問題については、教科書のものとは一部数値や提示の仕方を変更している。例えばどの図を使うか選択させたり間違いを指摘して説明する形式にしたりするなど、児童の思考や判断を求める問題を設定している。これは児童が説明を通して理解を深め、教師が学習の状況を見取って指導の改善を図るためである。これらの問題をどのように考えたかを説明し、相手を納得させる学習活動を設定しながら、知識・技能の確実な習得につなげていきたい。

## 5 児童(生徒)の実態

全体的に活発で元気がよく、学習に意欲的に取り組んでいる。発表の積極性に個人差はあるが、相談して納得したりよいと思った友達の意見を紹介したりすることで、全体で話し合いながら学習を進めることができている。児童同士で考えたことを説明する時間では、書いたことを読み上げるだけになったり聞いただけで分かったつもりになったりしてしまう様子も見られる。

算数科の学習では、絵や図を用いて説明をしようとする児童が多い。また、筆算など手順が決まっているものを話型に合わせて説明することができている。一方で、文章問題から正しい式を立てたり数や計算の意味を説明したりすることが得意ではない児童もいる。そのため、問題や図にある数字のうちどれを使って立式するのか、なぜその計算になるのかなど、数や記号が表している意味を全体で確認したり話し合ったりしながら学習を進めている。「表とぼうグラフ」の単元の学習中には、自分で考えたアンケート結果を表にまとめてグラフに表す自主学習を行ってきた児童もあり、学習したことを活かせる場面について考えようとしている姿も見られた。

本単元では、分割分数と量分数の違いについて具体的な場面を想定させ、説明をすることで確実に理解ができるようにしたい。その理解を基にして、分数の大きさの比較や同分母分数の加法・減法について「もとになる大きさ」に着目して考え、分数の加法や減法の意味について確実に理解できるようにしたい。

## 6 研究の視点との関わり

### (1) 視点1 個別最適な学び

- ①教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- ②学習計画（学習の見通し）
- ③知識・技能の確実な習得（習得）
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）
- ⑥自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- ⑦自己のキャリア形成とのつながり（キャリア形成）

① ノートやタブレット端末を使って説明する活動を設けることで、児童の学習状況を適切に把握していく。説明や理由を書く時間を設け、そこでの活動の様子や記述内容を見取ることで、児童の理解度を把握していく。また、友達に説明して納得してもらえたらサインをもらうという活動を設定し、早くできた児童には練習問題に取り組みさせる。「できた」という自己評価だけでなく、客観的に理解度を評価する資料として使用する。児童が客観的に自己の学習状況を把握するためにループリックを提示して児童と共有し、明確なゴールに向かってどのように学ぶことができたかを自覚できるようにし、自己の学習の方法を模索することができるようにする。また、ループリックに照らし合わせ、学習に困難を抱える児童の様子を教師が見取り、適宜指導を行うことで、全員が目標に到達できるようにする。

児童の理解度を見取り、必要に応じて全体で復習の時間を設けたり、朝学習や宿題で習熟を図ったりするなど知識・技能を確実に習得できるように支援を行う。また、前時での理解が不十分と考えられる児童に対しては、次時に問題に取り組む際に前時での学習と一緒に振り返ることで、既習事項を生かして学習を進めていけるようにする。

② 単元の初めに単元のまとめの問題を確認し、単元を通じて身に付ける資質・能力の確認を行う。

単元の目標や評価規準と各活動との関連を教師と一緒に確かめながら行うことを通して、本単元で身に付けるべき資質・能力を明確にするとともに、児童に単元全体の見通しを立てさせたい。

また、分数に関わる既習事項である分割分数について等分した一つ分を分数で表すことができることを振り返る。学習した際に難しいと感じたことやどのように理解したかなど、自信の学習過程についても簡単に振り返り、本単元でもどのような難しさがありそうか、どんな学び方が出てきそうかなど、見通しをもって学習に取り組められるようにする。

また、単元の初めに「分数が生活に活かされている場面」について考える。単元の学習を通して児童の視点や考えの変化が見られると考えられ、自分の生活とつながりがあるということを意識させることができる。

③ 本単元で身に付ける知識・技能は量分数の意味と表し方、単位分数をもとにした分数の大きさ、分数の加法と減法の仕方とその意味である。

課題解決に向けて一人で考える、友達と相談する、動画を見て理解する、教師の説明を聞くなど様々な方法から選択させる。さらにその成果を共有することで理解を深めたり足りないところに気付いたりさせる。理解が十分でないと判断される場合は教師と一緒に学習内容を振り返りながら解決に取り組んだり練習問題を解いたりすることで、確実に知識・技能を身に付けられるようにする。

④ 量分数については具体物やイラスト、「数としての分数」については数直線などを活用して、形式的な理解とならないように留意したい。



本単元では、習得した知識・技能を活用して1 mの紙に目盛りをつけ、校内のさまざまなものの長さを測定する活動を設定する。1 mを様々な大きさに等分することで、量分数の意味の理解を深める。また、測定した結果を交流し、長さを比較して表にまとめることで、分子の大きさを比べるという思考力・判断力・表現力の育成を図る。

また、グループで適切な分数ものさしを作るために話し合ったり測定した結果を表にまとめる活動を行ったりすることは「言葉を通じて伝え合い、考えを深める力」(言語能力)、「得られたデータを分析し表現する力」(情報活用能力)など、教科のみではなく学習の基盤となる資質・能力を育成することにつながる。

- ⑤ 習得した知識・技能や、知識・技能の活用を通して育成された思考力・判断力・表現力等を活用しながら、単元の最後には探究的な活動を行う。総合的な学習と関連させ、観光についてのアンケートの結果を分数で表すことで比較しやすくしたり分かりやすくしたりし、そこから分かることを考えさせることで、分数を日常生活で活用できるという実感をもたせたい。この活動を設定し個々に課題や表現の方法を選択させることで、自主的・自発的な学習を促し、児童が学習の目的を自覚し、学習の進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度の育成を目指す。また、自身で興味関心をもち選択したアンケートを分析した結果を総合学習でのまとめに利用することで、母数のちがう集団の結果でも分数で表せばおおよその量が分かり、比較しやすくなるというよさについても気付かせたい。

- ⑥ 学習内容のまとめりごとに記述や口頭で振り返りを行う。

ルーブリックを設定しゴールを明確にすることで、学習のまとめりごとに身に付けた知識・技能を振り返り再確認したり自身の学習過程について振り返ったりさせ、学習の成果を実感させたい。「端数部分を表せるようになった」「分数の大きさを比べられるようになった」などできるようになったことや「図を使って説明することができた」「みんなにすぐ納得してもらえる説明ができた」などが学習過程についての振り返りを中心に行っていく。児童の理解度を自覚させる場面として、全体共有と練習問題の時間を設定する。全体共有の場面ではロイロノートで友達の意見を見ることで自分の説明の方向性や記述が確かであるかどうかを確認できるようにする。また、練習問題の場面では、本時のねらいに即した問題に取り組み自分で丸付けを行うことで、客観的に理解の度合いを自覚することができる。どちらも児童の様子を見取り、悩んだり困ったりしている際には教師から声をかけたり友達と相談するように促したりして、解決や習得に向かえるように支援を行う。

また、自身の学び方を選択して取り組んだ際には、その方法が自身にとってどうだったのかを考えさせることで、今後の学びに向かう態度や方法の選択につなげられるようにしたい。

- ⑦ 単元の初めと最後に、これからの生活で分数を活用できそうな場面について考えさせる。単元の初めにはなかなか想起できないと考えられるので、料理の場面や「だいたい全体のうちのどれくらい」を表す場面に使うことを必要に応じて紹介する。単元の最後には初めに触れたことに加え、具体的に使用したい場面や使用できそうな場面について考えさせることでこれからの自分の生活とのつながりを意識させたい。

また、上記のような場面をリアルではなくても想定し分数を利用することを自主学習の取り組みとして奨励し、発想を豊かに広げて実生活につなげる素地としたい。

## (2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の児童生徒への関わり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
- ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ④学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）

① 児童同士の学び合いを中心として活動を行うが、児童のみで解決することがねらいではないので、困ったときや助言がほしいときには教師に相談するように伝え、個々の困り感に応じて適切な支援をしていく。

また、「分母」「分子」といった用語や「分母と分子が同じ数であるときは1と表す」というきまりなどについては、教師が全体で確認して知識として確実に身に付けられるようにする。

さらに、第2時においては量分数の導入であることを考慮し、「1 m」をもとにした分数には「m」をつけることを確認するなど、必要に応じて全体でのまとめを行う。

「説明しよう」という発問を基本的に設定することで、自身の考えを言語化し、友達に伝わるように表現する必要性が生じる。主に習得の時間においては問題の答えは「色をぬる」「不等号を書く」「□に入る数を書く」など比較的簡単な内容であるが、説明や表現の仕方はそれぞれである。多様な表現での説明に触れることで思考を深めたり広げたりできるようにしたい。

② 学び合いの場面では、友達の説明を聞いて納得すればサインをするという活動を設定する。同じ内容であっても児童一人一人の説明の仕方や表現は異なるため、そうした考えに触れることで自分の意見や表現の仕方を深めたり、広げたりできるようにしたい。また、個別の交流だけではなくロイロノートを使って全体で成果を共有しやすくすることで、限られた授業時間内でもたくさんの考えに触れ、自分との共通点や相違点などを見付け、考えをより確かなものにできるようにする。

③ 活動は個別に行っても、学級の全員が課題を解決できることを大前提とし、児童に周知している。自分が解決するだけでなく、困っている友達にアドバイスをしたり説明をしたりして全員が解決できるという経験を通して、活用や探究の場面でも協力して課題を解決しようとする態度を育成したい。

④ 総合的な学習の時間に行う留萌市の観光についての周知度を調べるアンケートは、学級内のみではなく他学年の児童にも行い、より幅広い情報を集められるようにする。その中から自分が分析する情報を選ぶ際にもなぜその学年なのか、何を明確にしたいのかなどの理由をはっきりさせることで、多様な年齢や意見のある集団の中で暮らしているということを自覚させていきたい。また、各学年は人数に差があるため、アンケートの結果は人数で単純に比較することはできない。そのため、「何分の一」というおおよその数で表すことで、各学年の結果を比較しやすくすることができるというよさに気付かせたい。

## 7 単元の指導計画（10時間）

### （1）児童の学習計画

	時数	育成を目指す資質・能力	主な学習内容および学習活動 [ ] 学習形態 <input type="checkbox"/> 課題 <input type="checkbox"/> まとめ 【 】 他教科との関わり	■評価規準 ( ) 評価方法 【 】 研究の視点
計画	1	問題発見・解決能力(思考力・判断力・表現力)	1、分数を生活で使う場面について話し合う。[協] 2、単元を通じて身に付ける資質・能力の確認。[個] ・単元の目標や評価規準（ループリック）を教師と確かめる。 3、本単元のまとめの問題を確認し、これまでに学習した知識・技能で使えそうなことを話し合う。[協]	■主①（授業中の発言・ノート） 【視点（1）①②⑦】
習得	1	知識・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <math>\frac{1}{4}\text{m}</math>のリボンを作ろう         </div> <p>1、2種類のテープを4等分して、<math>\frac{1}{4}</math>の長さを作る。[個] 2、長さを比べて気付いたことを話し合う。[協] 3、3つの図のどれかを使って1mを4等分した1つ分の長さに色をぬり、選んだ理由を書く。[個・協] 4、理由を全体で交流する。[協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           もとの長さをみんな同じ1mにすると<math>\frac{1}{4}\text{m}</math>ができる         </div>	■知①（ノート、ワークシート） 【視点（1）①②】 【視点（2）①②】
	1	知識・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           等分した大きさの表し方を説明しよう         </div> <p>1、2種類の図の色をぬった部分の長さを分数で表す。[個] 2、なぜそのように表したのかを3人に説明し、納得してもらえたらサインをもらう。[個・協] 3、分母と分子の意味について全体で確認する。[協] 4、練習問題に取り組む。[個]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           分母はもとの大きさを何等分したかを表し、分子は等分した大きさの何こ分かを表す         </div>	■知②（ノート、ワークシート、カード） 【視点（1）①③】 【視点（2）①②③】
	1	知識・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           水のかさを図を使って表そう         </div> <p>1、3種類の図のどれかを使って、<math>\frac{3}{8}\text{L}</math>に色をぬる。[個] 2、その図を選んだ理由や、なぜそのようにぬったかを3人に説明し、納得してもらえたらサインをもらう。[個・協] 3、練習問題に取り組む。[個]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           長さと同じように、かさも分数で表すことができる         </div>	■知②（ノート、ワークシート、カード） 【視点（1）①③⑥】 【視点（2）①②③】

	1 知識・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数を数直線に表そう</div> <p>1、1 mを4等分した図と組み合わせた数直線の□にあてはまる分数を書く。[個]</p> <p>2、<math>\frac{4}{4}</math>mのめもりが何mを表しているかを確認する。[協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数の分母と分子が同じ数のときは、1になる</div> <p>3、練習問題に取り組む。[個]</p>	<p>■知②（行動観察、練習問題） 【視点（1）①③】 【視点（2）①】</p>
	1 知識・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数の大きさをくらべよう</div> <p>1、数直線に当てはまる分数を考える。[個]</p> <p>2、<math>\frac{7}{10}</math>と<math>\frac{8}{10}</math>の大きさを比べ、不等号を使って表す。[個・協]</p> <p>3、なぜそう考えたのかを3人に説明し、納得してもらえたらサインをもらう。[個・協]</p> <p>4、練習問題を解く。[個]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分母が同じなら、分子の数で大きさを比べることができる</div>	<p>■知②（ノート、ワークシート、カード） ■思①（ノート、ワークシート、カード） 【視点（1）①③④】 【視点（2）①②③】</p>
活用	1 思考力・判断力・表現力	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数ものさしで長さをはかろう</div> <p>1、等幅の直線を使って<math>\frac{1}{5}</math>mずつの目盛りをつけ、分数ものさしを作る。[協]</p> <p>2、いろいろな物の長さを測り、表に記録する。[協]</p> <p>3、<math>\frac{1}{5}</math>mの目盛りでは測れない場合は、話し合って他の大きさの分数ものさしを作る。[協]</p> <p>4、記録を交流する。[協]</p> <p style="text-align: right;">【国語科との関わり①②】 【特別の教科道徳との関わり①②③】</p>	<p>■思③（行動観察、ノート） 【視点（1）①④】 【視点（2）②③】</p>

習得 (本時)	1 知識・技能 情報活用能力①② 言語能力② ④	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数のたし算の仕方を説明しよう</div> <p>1、<math>\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{10}</math> の間違いの指摘と正しい計算の仕方の説明を言葉や図を使って書く。[個・協] 2、2人に説明し、納得してもらえたらサインをもらう。 [個・協] 3、練習問題に取り組む。[個]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もとにする分数が同じだから、いくつ分かを足して計算できる。</div>	<p>■知④ (ノート、ワークシート、カード) ■思② (ノート、ワークシート、カード) 【視点 (1) ①③④⑥】 【視点 (2) ①②③】</p>
活用	1 思考力・判断力・表現力 情報活用能力①② 言語能力② ④	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分数のひき算の仕方を説明しよう</div> <p>1、<math>\frac{4}{5} - \frac{2}{5} = \frac{2}{5}</math> の間違いの指摘と正しい計算の仕方の説明を言葉や図を使って書く。[個] 2、2人に説明し、納得してもらえたらサインをもらう。 [個・協] 3、練習問題に取り組む。[個]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もとにする分数が同じだから、いくつ分かを引いて計算できる。</div> <p style="text-align: center;">【国語科との関わり①②】 【特別の教科道徳との関わり①②③】</p>	<p>■思② (ノート、ワークシート、カード) ■知④ (ノート、ワークシート、カード) 【視点 (1) ①③④⑥】 【視点 (2) ①②③】</p>
自覚	1 主体的に学習に取り組む態度	<p>1、単元のまとめの問題に取り組む。[個] 2、単元を通して分かったことやできるようになったこと、これからの生活に活かしたいことなどを振り返る。 [個] ※まとめの問題に個別に取り組み、知識・技能の習得状況を見取る。不十分である場合は教師と確認したり、教科書の問題を振り返ったりして習得を図る。</p>	<p>■主③ (振り返りの記述・発言) 【視点 (1) ①⑤⑥⑦】</p>
以下の学習活動は総合的な学習の時間の単元「留萌市の観光大使になろう！」で行う			
探究	学びに向かう力・人間性	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アンケートのけっかを分数で表そう</div> <p>1、観光についてのアンケートを分析するという学習活動について知り、学習の見通しを立てる。[個] 2、自分が分析したいアンケートを選ぶ。[個] 3、アンケート結果から円グラフをつくる。[個] 4、円グラフを見て、それぞれの選択肢が全体の何分のいくつになっているかをまとめる。[個] 5、グラフから分かったことを書き表す。[個] 6、さらに調べたいことやもっと知りたいことなどを考える。[協]</p>	<p>評価については 総合的な学習の時間の評価規準に則って行う。</p>

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	その他(現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等)
知識・技能		①情報技術を適切に活用するための技能		・地域や社会における産業の役割を理解し地域創成等に生かす力
思考力・判断力・表現力	①感情や想像を言葉にする力 ②言葉を通じて伝え合い、考えを形成し、深める力	②得られたデータとグラフを分析し表現する力	①物事の中から、問題を見いだす力 ②過程を振り返って次の問題発見・解決につなげていく力	
学びに向かう力・人間性等	③言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げる力 ④集団としての考えを発展・深化させようとする力	③問題解決・探究における情報活用の態度		

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	算数	社会	理科	道徳	外国語活動
①話すこと・聞くこと(1)イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ②書くこと(1)ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。				①[希望と勇氣、努力と強い意志] 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。 ②[相互理解、寛容] 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。 ③[友情、信頼] 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	
図工	音楽	体育	特別活動	総合的な学習の時間	
				①[思考力・判断力・表現力] 収集した情報を整理・分析することができる。 ②[思考力・判断力・表現力] 目的に応じて分かりやすくまとめることができる。	

## 8 本時の実際

### (1) 本時の目標



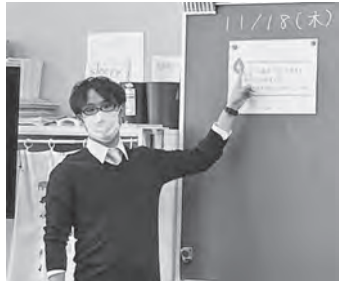


同分母の分数の加法の意味について理解している。(知識・技能③)

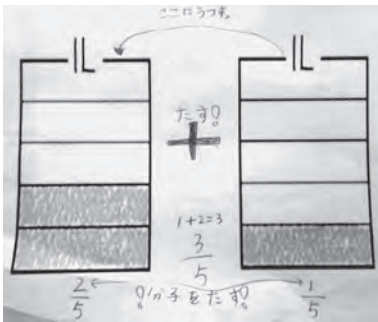

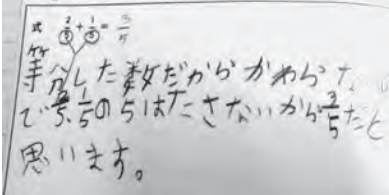
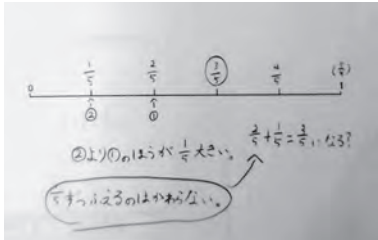
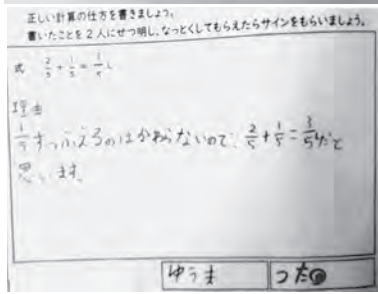
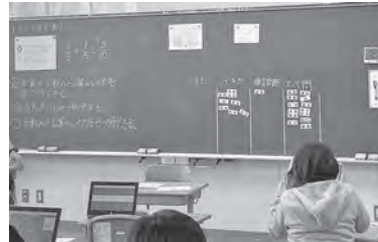
単位分数のいくつ分と見ることで、整数と同じように処理できることに気付き、同分母の分数の加法の計算の仕方を考えている。(思考・判断・表現②)

### (2) ルーブリック (評価基準)

評価基準	児童の学習状況
◎「十分満足できる」状況	同分母の分数の加法の意味について理解し、計算の間違いについてもとにする分数についてふれながら説明している。
○「おおむね満足できる」状況	同分母の分数の加法の意味について理解し、説明している。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	イラストを実際に操作させ、もとなる分数のいくつ分になるかを考えさせる。

### (3) 本時の展開 (8 / 10)

過程 (分)	○主な学習活動【 】活動形態 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 ( ) 評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要する児童への手立て
導入 (8分)	<p>○本時の問題を確認する。 【協】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <math display="block">\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{10}</math> <p>と計算しました。これはまちがいです。正しい計算のしかたを書きましょう。 書いたことを2人に説明し、なっとくしてもらえたらサインをもらいましょう。</p> </div> <p>・分数でたし算をしているね。 ・どこがまちがっているのかな。</p> <p>○学習課題を設定する。【協】</p> <p>全員が、分数のたし算のしかたを説明できるようにしよう。</p> <p>○ルーブリックを確認し、個人での目標を設定する。【個】</p> <p>○ゴールまでの見通しをもち、解くための方法を決める。 【個】</p> <p>・教師と一緒に考える ・一人で考えてみる ・友達と相談する ・eboardなどの動画を使う</p>	<p>◇問題を見て、分数のたし算の間違いを説明するという見通しをもたせる。</p>  <p>◇正しい答えを求めるだけでなく、計算の仕方を説明できるようにするというねらいを十分に確認する。</p> <p>*途中でやり方を変えてもいいことを確認する。</p> 	<p>■評価規準 ( ) 評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要する児童への手立て</p>  <p>【視点 (1) ②】</p>  

<p>○それぞれの学習方法で問題を解決する。【個・協】</p> <p>①教師とやり取りをしながら、ノートやワークシートに書く。 →類似問題を解く。</p> <p>②ノートやワークシート、カードに自分で説明を書く。 →友達と説明し合ったり、教師と確認したりする。</p> <p>③動画を視聴した後、ノートやカードに説明を書く。 →友達と説明し合ったり、教師と確認したりする。</p> <p>※その他自分に合った方法で学習を進める。</p> <p>○ロイロノートで成果を共有する。【協】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートやワークシートを写真で提出する</li> <li>・説明を書いたカードを提出する</li> <li>・説明を聞きたい友達のところへ行き、説明を聞く。</li> <li>・2人の友達に説明し、サインをもらう。</li> </ul> <p>○理解の習熟を図る【個】</p> <p>①練習問題に取り組む。</p> <p>②教師の説明を再度聞く。</p>	 <p>◇イラストを使い、実際に操作をしながら説明する。 *一方的な説明ではなく、児童とやり取りをしながら説明をする。</p> <p>◇ワークシートやイラストを用意し、自由に使うことができるようにする。</p>  <p>◇提出した説明を確認し、理解度を確認する。</p>  <p>◇共有した際に理解が不十分であると判断した児童に対し、説明をする。 *練習問題についてはプリントと答えを用意し、できた児童から丸付けをさせる。その後、友達に出すための問題をつくらせる。</p>	<p>【視点(2)①②】 【視点(1)③】</p> <p>▲一人で取り組んでいる児童の手が止まっている場合は、図を使うようアドバイスしたり友達と相談するように促したりする。</p> <p>■単位分数の幾つ分と見ること、整数と同じように処理することに気づき、同分母の分数の加法の計算の仕方を考えている。(ノート、ワークシート、カード)</p> <p>■同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、説明している。(ノート、ワークシート、カード)</p> <p>【視点(1)①③】</p> <p>▲説明が上手くいかない児童に対しては、教師が選んだ友達の意見を参考にするように伝えたり、一緒に考えなおしたりする。</p>  
<p>終末 (5分)</p> <p>○振り返りを行う。【個】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようになったことは何か。</li> <li>・友達に納得してもらえる説明はできたか。</li> <li>・今日選んだ方法はうまくいったのか。</li> </ul>	<p>◇できたことや分かったことだけでなく、自分の選んだ方法は適切だったかなど、学習過程についても振り返るよう声かけをする。</p>	<p>【視点(1)⑥】</p> 



## 9 成果と課題 ～授業後研究協議より～

### 視点1 「個別最適な学び」について

#### 《成果》

- ・どこまで与えるか、難しいところだと思いますが、困ったときに別の方法を選択できることで解決に向けて学びを進めていけるのはとてもよい学び方だと感じました。
- ・課題を全員で共有し、何を学習したらよいのか、全員が理解していました。コンピュータを使い思考を深めていました。
- ・課題の解決に向け、指導と学習の個別化を図った授業になっていたと思います。子供が自分で学びを調整していくように工夫改善をしていきたいと思いました。
- ・自分の学習課題の達成に向けて、主体的に手段を選択できたり、途中から変更し、新たな解決方法を選択したりすることができていました。
- ・解決に向けて、複数の手立てを用意していました。ルートがたくさんあると、それだけ多様な考え方が生まれます。「自分のやり方」でゴールに向かうことができているのがよかったです。フォルダ共有で他の手立ても見ることができていたので、なお Good でした。
- ・自分のペースで学習が進められるところがよいと思いました。
- ・課題を全員で共有し、何を学習したらよいのか、全員が理解していました。コンピュータを使い思考を深めていました。
- ・自分で学習方法を選択して、伸び伸びと学習する姿が印象的でした。

#### 《課題》

- ・自分で考えたい考え方で、個人思考を進めることが出来ていたのがよかったです。ただ、(下位の子も含めて)“最適な選択”をさせることが難しそうだと感じました。どんな判断基準で、何を選択させるのか、またその力をどのように指導するのかを考えていきたいと思いました。
- ・ICTによる児童の学習状況把握は一定の成果があると感じます。ただし、今回はPCだけではなく、ノートやプリントもあったため、難しさもあったのではないのでしょうか。さらに、課題解決の方法も、面積図、数直線、式、文章表記など、多様な形があったために、なおさらそう感じました。もし「PCで面積図のみ」などと絞ると、よりはっきり見えてくると思いますが、もちろん個別最適な学びからは離れてしまうのかもしれない。個別最適な学びにおける見取りは今後の課題の一つだと考えます。
- ・ルーブリックの有用性も感じました。ただし、今回は「1/5の一つ分で考えると～(単位分数)」の文言があれば、さらによかったです。これがあれば、「友達に説明して納得してもらえたら～」の部分も違ってきかかもしれません。
- ・「課題解決に向けて様々な方法から選ばせる」実践例として、提案性の高い内容だったと思います。進み具合を黒板で可視化する方法の工夫の一つとして評価できます。ただし、進み具合はわかっても、「本当に理解しているかどうかの自覚」はあやふやだったかもしれません。ここでも、具体的なルーブリックやゴールが関係してくるのでしょう。
- ・一人で解決に向かう子ども(動画等)に対する手立てが難しいなと感じました(機器の整備も含めて)。

## 視点2「協働的な学び」について

### 《成果》

- ・友達同士で説明し、わからないところは、先生や教科書で調べるなど、考えを深めていました。
- ・お互いの考えを認め合いながらよりよい表現をする能力を身に付けていく授業のつくりだと思いました。教科横断的な視点から、他の活動にも生かされると思いました。
- ・自分の考えと他人の考えを比較する、自分から教えに行く、教えてもらいに行く、助言し合うなど、自分で考えながら“対話的”“協働的”な学習を行えているように感じました。
- ・子どもたち同士が必要感をもって、関わり合う姿があつてよかつたと思います。
- ・同じ考えや手立てをもった者同士で集まって、議論しながら解決に向かつていたので良かつたと思います。また、解決方法についても、違う手立ての子同士でも交流ができていました。この形を単元を通して進めていくとかなり力がつくのでは・・・？と見ていました。
- ・友だちと学び合う様子が見られました。先生がいなくても学習が進められ、お互いに高め合える効果(?)を改めて感じました。
- ・友だち同士で説明し、わからないところは先生や教科書で調べるなど、考えを深めていました。「授業参観シート」並びに事後研の方法(特に、授業者の指導方法等ではなく、子どもの姿に目を向けさせる方法)が、とても勉強になりました。一昔前は、子どもを数人抽出して、細かく記録し、それを事後研で生かすような方法もあつたと思い出しました。
- ・全員が学習課題を達成できるように、学び合つたり進んで助けようとしたりしながら学ぶ様子がとてもよかつたです。

### 《課題》

- ・どうすれば課題を解決できるのか、互いに考えを述べ合い相談し合いながら学んでいたと思います。ただ、本時は3/10は×で、じゃあ正しい答えは何だつたのか?ということが、それぞれ(グループ含め)で終わつていたように感じました。(研究協議の)Aグループの発表にあつたように、何かしらの“まとめ”や“確認”はあつた方がよいのかと思いました。
- ・「説明できるように頑張ろう」という思いや、「友達と一緒に考えよう」という思いが、子供たちから見られ、よかつたと思いました。その思いが「わからなくて困っている友達を助けてあげよう」という思いにまでつながり、最終的に学級全体が本時の内容を理解できるようにすることも大切だと思いました。
- ・③「活動は個別でも、学級の全員が課題を解決することが前提」という考え方に賛成です。問題は、「どうなれば全員が課題を解決したことになるのか」ということでしょう。1でも述べましたが、やはりより具体的なルーブリックやゴールを設定することがポイントの一つかもしれません。また、授業のどこかで、特に後半だろうか、適切な出力(他者への説明など)を意識させるとよいのではないのでしょうか。今回のような協働的な活動において、学習内容の出力は「自分なり」に留まることが多いです。より適切な内容・方法でも出力できるような学習デザインも必要かもしれません。



# IV 成果と課題



**視点1 個別最適な学び**

**視点2 協働的な学び**

# 研究の成果と課題について

留萌管内教育研究所では、第10次共同研究の研究課題を「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～」と設定し、研究を進め、提案授業を1本行った。

各視点の成果と課題について、以下のように明らかにすることができた。

## 視点1 個別最適な学び

### 成果

- 単元のはじめに単元を通じて身に付ける資質・能力の確認を行ったことや「学習したことが生活に活かされている場面」について考える時間を設けたこと、1単位時間ごとにルーブリックを作成して、児童に提示したことなどにより、本時で何を学習するのかを理解し、それぞれのゴールに向かって主体的に学習に取り組もうとする姿が見られた。
- 課題解決に向けて一人で考える、友達と相談する、動画を視聴する、教師の説明を聞くなど様々な方法から、児童生徒自身に学習方法を選択させたり、困ったときには他の方法を再度選択させたりするなどしたことにより、自身の学習を調整しながら、それぞれのペースで進めようとする姿が見られた。

### 課題

- それぞれの児童にとっての“最適な学習”とはどんな学習なのか、それを判断させるための豊富な学び方の経験や教師の伴走者としての能力の向上、児童生徒自身が最適な学び方を選択する能力の向上などが必要である。
- 本時の学習を確実に習得させるためには、より具体的なルーブリックの作成やゴールの設定を行い、児童生徒や保護者の信頼を得られるものにすることや、児童生徒がより主体的に自らの学習を調整できるものにしていく必要がある。

## 視点2 協働的な学び

### 成果

- 児童生徒同士が学び合う場면을意図的に設定し、自身の考えを言語化したり、多様な表現での説明に触れたりしたこと、教師が直接関わらなくても、自分の考えと他者の考えを比較したり、同じ考えや手だてをもった児童生徒同士で議論したりと、課題解決に向かおうとする姿が見られた。
- ICTを活用し、個別の交流だけでなく全体でも成果を共有させる場面を設けたことで、たくさんの考えに触れ、自分との共通点や相違点などを見付けながら、自己の学習を充実させようとする姿が見られた。

### 課題

- 「活動は別でも、全員が課題を解決する。」そのために「どうなれば全員が課題解決したことになるのか」ということを、教師が明確に示し、児童生徒が確実に理解することが必要である。

## 参考文献リスト

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 文部科学省
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申） 令和3年1月26日中央教育審議会
- 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版） 文部科学省初等中等教育局教育課程課
- 指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 令和2年3月 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について 令和2年9月 文部科学省
- 北海道教育委員会 ICT活用授業指針～「学びの深化」「学びの転換」へのチャレンジ～ 令和2年8月北海道教育委員会
- 令和2年度小学校教育課程編成の手引 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施～「主体的・対話的で深い学び」の実現～ 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 令和2年度小学校教育課程編成の手引 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 小学校新学習指導要領改訂の要点 一般財団法人総合初等教育研究所 ふんけい2017年
- 研究紀要 第24号・第25号・第26号 留萌管内教育研究所
- 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」（第2回・参考資料） パフォーマンス評価とは何か 平成25年1月21日西岡加名恵
- 新潟大学教育学部附属新潟小学校初等教育研究会 新学習指導要領における学習評価の在り方―「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価 2020年2月7日 西岡加名恵
- 研究紀要第77集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現 令和2年2月新潟大学教育学部附属新潟小学校 初等教育研究会
- 研究紀要第78集 変える力を高める授業 令和2年2月新潟大学教育学部附属新潟小学校 初等教育研究会
- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について 文部科学省国立教育政策研究所2020年6月
- 要覧「るもいの教育」―令和3年度（2021年度）版― 北海道教育庁留萌教育局
- 小学校学習指導要領 小学校・総合的な学習の時間 改訂のポイントと指導の改善・充実 文部科学省 渋谷一典 NITS独立行政法人教職員支援機構
- キャリア教育の実践 筑波大学 藤田晃之 NITS独立行政法人教職員支援機構
- 「令和の日本型学校教育」を語る～一人一人の子供を主語にする学校教育とは～ 令和3年3月27日（土）戸田市教育委員会 教育長戸ヶ崎 勤

- ・教科横断的な学びに関する一研究  
 島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ 共同研究
- ・教科等横断的な視点での教育課程の編成 令和元年9月3日 大分県教育庁義務教育課 瀧口忍
- ・情報活用能力を育成する教科等横断的な教育課程の編成 令和2年7月 大分県教育庁義務教育課
- ・初等教育資料2019年5月号 2020年10・11・12月号 2021年1・2月号  
 文部科学省 東洋館出版
- ・学校の大問題 これからの「教育リスク」を考える 2020年11月15日 石川一郎 SB新書
- ・2020年からの新しい学力 2019年9月6日 石川一郎 SB新書
- ・最新教育動向2021 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120  
 2021年1月 教育の未来を研究する会 明治図書
- ・流行に踊る日本の教育 2021年1月10日 石井英真 東洋館出版
- ・アクティブラーニング実践の手引きー各教科で取り組む「主体的・協働的な学び」  
 2016年4月1日 田中博之 教育開発研究所
- ・[図解] 授業づくりの設計図 2020年7月10日 澤井陽介 東洋館出版社
- ・資質・能力を育成する授業づくりー指導と評価の一体化を通してー  
 2021年3月16日 田中保樹・三藤敏樹・高木展郎 東洋館出版社
- ・単元縦断×教科横断 主体的な学びを引き出す9つのステップ  
 2020年9月10日 木村明憲 さくら社
- ・私は『学び合い』をこれで失敗し、これで乗り越えました。  
 2018年2月3日 西川純 東洋館出版社
- ・小学校 算数「学び合い」を成功させる課題プリント集  
 2018年4月16日 西川純・木村薫 東洋館出版社
- ・クラスが元気になる！『学び合い』スタートブック 2020年4月10日 西川純 学陽書房
- ・3つのステップでできる！ ワクワク 子どもが学びだす算数授業♪  
 2021年2月24日 樋口万太郎 学陽書房
- ・子供が自ら学びだす！ 自由進度学習の始め方 2021年3月22日 蓑手章吾 学陽書房
- ・先生が教えるを子供が学ぶに 教師のいない授業の作り方  
 2021年4月 若松俊介 明治図書
- ・「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引きー学ぶ意欲がぐんぐん伸びる評価のしかけ  
 2020年5月 田中 博之 教育開発研究所

## 研究協力員

飯 田 ユ ミ (苫前町立苫前小学校)

坂 本 千 恵 (天塩町立天塩小学校)

柳 谷 武 志 (遠別町立遠別中学校)

山 形 大 介 (天塩町立天塩中学校)

## 留萌管内教育研究所

所 長 村 元 隆 一 (留萌市立港北小学校)

主任研究員 荒 木 隆 典 (増毛町立増毛小学校)

研 究 員 中 村 泰 広 (留萌市立潮静小学校)

會 田 匡 啓 (留萌市立留萌小学校)

四 宮 詠 子 (留萌市立港南中学校)

石 塚 洋 子 (小平町立小平中学校)

佐 藤 豪 (留萌市立緑丘小学校)

靱 山 朋 久 (留萌市立東光小学校)

平 山 由 美 (留萌市立留萌中学校)

事 務 員 按 田 由 香



## あ と が き



昨年1月、中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』が示されました。また、本年度は中学校では新学習指導要領の全面実施の年となり、さらに児童生徒に一人一台端末が与えられるなど、学校教育も新しい時代に突入していることを感じざるを得ない一年となりました。

「現場ファースト」の合言葉のもと、研究所の研究として、この新しい時代の中でどこを目指すべきなのか、また、答申や学習指導要領の趣旨の実現に向け、どう具体化していくべきなのか。議論を重ねながら、3か年継続研究の地盤作りを進めてまいりました。

この度、本研究の成果と課題をまとめた研究紀要第27号を発刊いたします。本年度の重点である「育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン」について、管内の先生方に少しでもイメージしてもらえそうなものにしたいたいという思いをもちながら作成いたしました。

本紀要について、学校における校内研究・研修はもとより個人研究や日常実践などに広く活用していただくとともに、多くの皆様のご批正、ご指導をいただけましたら幸いに存じます。

本年度の成果と課題を踏まえながら、留萌管内の全ての子供の可能性を引き出すことにつながる研究を目指し、次年度も取り組んでまいります。今後も当研究所に対しまして、変わらぬご指導とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

令和4年3月

---

研究紀要 第27号

### 「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究 ～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの積極的な活用を通して～

発行日 令和4年3月  
発行所 留萌管内教育研究所  
〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地  
Tel/Fax (0164) 42-2635 (直)  
E-Mail [ruken@educet.plala.or.jp](mailto:ruken@educet.plala.or.jp)  
U R L <http://ruken.hs.plala.or.jp>

発行者 所長 村 元 隆 一  
印刷所 白鷗印刷株式会社  
〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20  
Tel (0164) 42-1111

---



